

応募様式

第7回図書館レファレンス大賞への応募事例

1. 事例のタイトル（応募名となります）とタイプ

タイトル（20字程度。副題（サブタイトル）を含めます。） 「戦争中の奈良の柿～奈良県統計書未刊の時期の情報をさがす～」
タイプ（あてはまるものを○で囲んでください。） (a) 質問・回答の事例 b) 利用促進を図る取り組みの事例

2. 応募者 ※枠の大きさは適宜調整してください。

応募者名 （個人・団体など）	天理大学情報ライブラリー 本館閲覧担当	
代表者名	楓 葉子	
代表者の所属・職名 等	天理大学情報ライブラリー業務責任者	
連絡先	担当者名	塩見 敦子・中川 有紀・三好 裕子
	〒所在地	〒632-8513 天理市杣之内町 1050 番地
	電 話	0743-63-8406
	F A X	0743-63-8543
	e-mail	jora-8go@sta.tenri-u.ac.jp

（図書館の蔵書冊数について、令和3年3月末日の概数を記入してください。）

応募事例の 図書館名と蔵書冊数	図書館名：	蔵書冊数：
	天理大学情報ライブラリー あてはまる館種を○で囲んでください。 公立、学校、 大学 、専門、公益法人立、 その他（ ）	約 16.7 万冊

3. 応募事例の実施時期

平成	平成	年	～	年
令和	3	年		
	6月～7月	頃		

4. 公表について

「1. タイトル (応募名)」および「2. 応募者 (連絡先を除く)」を図書館総合展のホームページ等で公表することに、

同意します 同意しません (あてはまるものを○で囲んでください。)

最終審査に進んだ場合また奨励賞を受賞した場合、「プレゼンテーション動画」「応募書類」を図書館総合展のホームページ等で公表することに、

同意します 同意しません (あてはまるものを○で囲んでください。)

5. a) 質問の詳細と背景／b) 取り組みの趣旨と目的 ※枠の大きさは適宜調整してください。

a)

利用者から「奈良の柿の収穫量が知りたい」という質問を受けました。その場で奈良県のホームページを確認し、『奈良県統計書』が公開されているページをご案内したところ、欠号となっている昭和 17 年から昭和 23 年の収穫量や作付面積などが知りたいという申し出がありました。戦争中に収穫量が減少しているはずということで、年ごとの収穫量の推移などがわかる統計データを探してほしいということでしたので、少しお時間をいただき調べました。

b)

質問があるまで、県の統計書あるいは統計年鑑が休刊していたことも知らなかったため、この機会に調べてみようと考えました。また、奈良県名産の柿が戦時中に収穫が減少していた可能性があるということも利用者からの質問によって気づいたために、興味を持ちました。

6. a) 図書館からの回答内容／b) 図書館の取り組みの詳細

※枠の大きさは適宜調整してください。

a)

回答は 2 度に分けて行いました。

①回答 1 回目の内容

戦時中の様子をうかがわせる資料がいくつか見つかりましたので途中経過を報告しました。既に 奈良県統計書における農業関係の統計について、昭和 11 年の凡例には「市町村の報告書類及官署若は公私団体より蒐集せる材料により編製せり」とありますので、全国的な統計と数値が一致するのではないかと考え、農林省が全国的に行った統計について調べてみました。

1、久我通武、藤井俊治 共著『農林業センサス早わかり』（葵書房, 1959）
第 1 章第 1 節「農業センサスの歴史」という項目に、戦前からの統計の歴史についての記述があり、昭和 12 年（1937）に「農家一斉調査」ということで、個々の農家の状況を調べたようです。昭和 16 年（1941）に毎年 2 回、夏と冬に実施する方式が

整い、農林省-都道府県-市町村-調査員-個別農家という形で調査がおこなわれたようですが、昭和17年からは漸次くずれていき、昭和20年(1945)には部落実行組合長から表式調査報告を求める形に変更されたようですが、実際には夏の集計は不可だったようで、一部の表式調査が昭和24年頃まで継続したようです。

・昭和22年(1947)には「供出資料」、俗に「八・一センサス」と呼ばれる臨時農業センサスの調査が行われたということです。(『農業センサス早わかり』については、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの図書館送信対象資料であるため、大学内の指定端末で申込みれば閲覧が可能であるという案内もしました)

2、第15回全国かき研究大会事務局資料編集班編『奈良のかき』(1977, 奈良県果樹研究会) 第2章2「沿革」(2)栽培の項に、明治以降の栽培の歴史がまとめられていました。昭和16年頃から戦後についての記述も簡単ながらあるようです。

こちらは学内に所蔵はありませんでしたが、県内では奈良県立図書館と、天理市立図書館が所蔵しています。

いずれも禁帯出資料のため館外貸出は出来ませんが、それぞれの図書館内での閲覧・複写は可能です。

尚、p105に1977年時点の「奈良県果樹関係機構図」が掲載されていました。

3、第29回全国カキ研究大会実行委員会/編『奈良のかき』(1991, 奈良県果樹研究会) 第1章1「奈良県におけるカキ栽培の歴史」の項に明治以降の栽培の歴史がまとめられていました。地区別の歴史や、耕地面積の図表なども該当年次のものはいくつか見られますが、収穫量を年次で確認できるような表はありませんでした。

「戦争中はカキ園が荒れていた」という表現もみられますが、具体的な数値は見つかりませんでした。こちらも学内に所蔵はありませんでしたが、県内では奈良県立図書館と、天理市立図書館が所蔵しています。

(2と3については、天理市立図書館で、回答前に実際に資料を閲覧しました)

4、『農商省統計表』または『農林省統計表』

昭和17年から昭和21年までは上記のタイトルで統計表があるようです。こちらは国会図書館デジタルコレクションのインターネット公開資料でそれぞれ閲覧することができます。昭和17年のみ「農林統計編」「食品工業統計編」に分かれているようです。

昭和17年の「農林統計編」を確認したところ、85コマ目に柿の項目があり、「耕地で集団的に栽培されるものの現在面積」「(宅地や畦畔に)散在的に栽培されるものの現在樹数」「実収高」が県別にしめされており、奈良県の数値も確認できます。「実収高」が収穫量とイコールであるかどうかは分かりません。他の年次は確認していませんが、同様の記述がある可能性があります。尚、全国の数値を集計してまとめたものは情報ライブラリー本館3階参考閲覧室に所蔵があります。

『完結昭和国政総覧』(351/45/Cu1~4)

第1巻 4 農林水産業・建設業に「かき」についての項目があります。(p119)

5、現在の農林業センサスについては農林水産省 農林業センサスの概要のページで調査方法などが記載されています。

休止期間中の奈良県統計書について、それに代わる年次のデータが記載された資料

があるかどうかを奈良県の統計分析課へお尋ねいたしましたが、「分からない」との回答でした。

②回答 2 回目

奈良県立図書情報館に質問し、該当する資料があることをお知らせしました。

（回答前に実際に資料を確認するため、奈良県立図書情報館へ行き、資料を閲覧しました）

・『奈良県における農畜産物の累年統計』奈良県農業協同組合中央会，〔1981〕（所在：ふるさと、請求記号：610.5/63）

こちらの p57 あたりに、果樹別の統計として「かき」の項目があり、畑の場合は面積で、個人の庭等に植えられたものは本数でカウントし、年別の収穫量（t）の記載もありました。

（表の各項目の説明は凡例及び p 55 の下方にありました。）

奈良県統計書が未刊の昭和 17 年から昭和 23 年についても数値が挙げられていました。

・『奈良県における農畜産物の作付面積・生産量の推移』奈良県農業協同組合中央会，〔1981〕（所在：ふるさと、請求記号：610.5/63/F）

種類別に作付面積の推移をグラフにしています。「かき」は p 15 あたりにありました。

いずれも禁帯出資料で、閲覧や複写は奈良県立図書情報館館内で可能です。

b)

天理大学情報ライブラリーは学生用の図書室ということもあり、古い図書の所蔵が少ないため、検索の範囲を自館に限らずに調査しました。

コロナ対応のため、各図書館のサービス状況も考慮しつつ、調査結果をもとに利用者の方がご自身で訪問したり、閲覧したりすることが可能な図書館資料を紹介するように心掛けました。

7. 応募事例がもたらした主な成果・効果（a），b）ともに）

※枠の大きさは適宜調整してください。

県の統計書については、ホームページなどで「休刊」や「欠号」と表示されていても全国の統計に内訳がある場合は、対応する県の資料が別に存在することもある

ということが分かり、丁寧に調べる必要性についてこの調査を通じて理解することができました。

『奈良県史』『西吉野村史』などといった栽培が盛んな地域の歴史を扱った図書には「柿」についての言及が案外少なく、昔から栽培されていたというのも思い込みだったことがわかりました。

資料を複数確認することで、一つの資料で出典が不明だったグラフや図表などの出典を他の資料で発見し確認することができました。資料を丁寧に見比べることの重要性について改めて理解することができました。

統計資料に見える「散在本数」について、畑とどのように区分しているのかが明確にわかる資料がみつけれませんでした。

また、昭和22年の「八・一センサス」に相当する奈良県の調査資料が国会図書館の検索で見つからないため奈良県立図書情報館でも尋ねてみましたが、今のところ該当資料が作成されたかどうかについては確認できていません。

また、『奈良のかき』にあった戦時中の柿園荒廃について、果樹をどの程度伐採したのか、芋や雑穀などをどのように植え、それがどのように統計に反映されているのかについて文章の裏付けとなる資料が無いかが調べていますが、いまのところ確認できていません。

所属する図書館の所蔵資料やWebなどの検索では限界があり、回答を未確認の項目を残したまま行ったのが若干心残りですが、所蔵資料や国会図書館の検索、公共図書館への質問などを活用すれば利用者へある程度満足していただける回答を作成することができるとわかりました。

8. 今後の課題や展望（応募したレファレンスサービス事例を踏まえ、今後のレファレンスサービスに対する課題や展望を記入してください。） ※枠の大きさは適宜調整してください。

図書室内にある参考図書について、更に内容や使い方についての理解を深めて適切な案内ができるようにつとめていきたいと思います。

複数の資料を見比べて、より回答の精度を高めていけるようにチーム一同つとめていきたいと思います。

(注)

- 1 本様式とは別に参考資料を添付することも認められますが、資料のサイズはA4サイズに統一してください。なお、本様式とあわせて全体で10ページ（10枚）以内に収めてください。
- 2 書類審査を通過した応募書類については、図書館総合展ホームページ等で公表させていただく場合がありますので、本様式の作成にあたっては個人情報の記載等について御留意ください。

4. 公表について

「1. タイトル（応募名）」および「2. 応募者（連絡先を除く）」を図書館総合展のホームページ等で公表することに、

同意します

同意しません

（あてはまるものを○で囲んでください。）

最終審査に進んだ場合また奨励賞を受賞した場合、「プレゼンテーション動画」「応募書類」を図書館総合展のホームページ等で公表することに、

同意します

同意しません

（あてはまるものを○で囲んでください。）

5. a) 質問の詳細と背景／b) 取り組みの趣旨と目的 ※枠の大きさは適宜調整してください。

b) 北広島市は2019年（令和元年）に電子版「小学校社会科副読本・北広島」をクラウド上に制作した。電子化にあたっては、対象資料の見開きページごとに、市内公共施設のデジタルアーカイブ、学校図書館を含む市内図書館の蔵書書誌情報、様々な子ども向けウェブサイト、独自に作成した副教材などともリンケージを可能にする教材作成ツール（k-plat）を実装させ、高機能化を図った。

電子版副読本の最大の特徴は、教員のみならず市図書館・学校図書館の司書が学習に有用な資料やサイトの情報を提供することで、学校や地域の図書館を有効に活用した授業を促すことができ、かつ、地域の学芸員、市広報担当などの地域情報のエキスパートが、自らの専門的知識や経験を基とした情報資源を提供することで、教員が行う授業をより密度の高い、生きた授業へと進化させることを可能にしているところである。

6. a) 図書館からの回答内容／b) 図書館の取り組みの詳細

※枠の大きさは適宜調整してください。

b)

2018年度（平成30年度）～2019年度（令和元年度）

電子版「小学校社会科副読本・北広島」及び教材作成ツール（k-plat）の開発

2020年度（令和2年度）

(1)k-plat 研修会

市内3・4年生担当教員および図書館司書・学校司書を対象に、教材作成ツールの実技研修会を開催。

(2)電子版「小学校社会科副読本・北広島」を活用したモデル授業の実施と収録

11月10日 大曲小学校3年1組教室 対象児童40名 担当：山本和彦教諭

11月27日 緑ヶ丘小学校4年1組教室 対象児童40名 担当：山崎智行教諭

(3)電子版「小学校社会科副読本・北広島」活用の調査研究報告書作成

教員ほか関係機関に配布することで、より一層の普及をめざすため、活用の記録、図書館による資料リスト提供や意見などをまとめた活動報告書を作成し、関係者に配布のほかホームページ等に掲載した。

2021年度（令和3年度）

GIGA スクール環境下でのデジタル副読本活用の教員研修会を実施。図書館からは

資料リスト等の情報提供を継続。

7. 応募事例がもたらした主な成果・効果（a）、b)ともに）

※枠の大きさは適宜調整してください。

b) 電子版副読本と教材作成ツールというプラットフォームができたことで、教員間での情報交換はもとより、学校図書館・地域の専門施設間との地域資料や学習情報のやり取りが、よりスムーズになり、かつ開かれたものとなった。
子どもの発達成長の通過点に、このような地域学習ネットワークの恩恵が用意されている学校や地域社会は、子どもにとって楽しく得難い環境であろうし、そこで経験が子どもの主体的な社会性や地域社会への思いをもたらすものと考えている。

8. 今後の課題や展望（応募したレファレンスサービス事例を踏まえ、今後のレファレンスサービスに対する課題や展望を記入してください。） ※枠の大きさは適宜調整してください。

b) 今回のコロナ禍を通して、教育の情報化は喫緊の課題であることを、改めて思い知らされることとなった。GIGA スクール構想に準じた ICT 環境があったとしても、それをどのように使うのか、いかに活かすのか。こうした面でのサポートも図書館にとっては不可欠なものになっている。1人1台端末時代の新しい教科書の形としての電子版副読本の活用をサポートする図書館の実践をどのように展開していくかが今後の大きな課題となる。

別紙参考資料（pdf）

〈2018-2019 開発期〉

(1)北広島市「郷土資料デジタル教材化事業」図書館の学校 2020 年春号 18p/2018 年度振興助成事業報告

〈2020-2021 活用の調査研究期〉

(2)周知用パンフレット「小学校社会科副読本・北広島」の電子化と活用（北広島 k-plat）

(3)電子版「小学校社会科副読本・北広島」活用の実践的調査研究成果概要フォーマット

(4)新聞・広報記事一覧

（注）

- 1 本様式とは別に参考資料を添付することも認められますが、資料のサイズはA4サイズに統一してください。なお、本様式とあわせて全体で10ページ（10枚）以内に収めてください。
- 2 書類審査を通過した応募書類については、図書館総合展ホームページ等で公表させていただく場合がありますので、本様式の作成にあたっては個人情報の記載等について御留意ください。



北広島市「郷土資料デジタル教材化事業 ～まちの魅力を子どもたちへ～」

【事業者名】

北広島市図書館
フィールドネット運営委員会

【助成期間】

平成30年4月1日～平成31年3月30日

【助成金額】

8,000,000円

【事業目的・概要】

まちの将来を担う子どもたちに郷土の魅力を伝えていくこと。その際、市内各小中学校で整備されているICT機器を有効活用した教育手法、学習手法の向上に寄与すること。

以上2点の目的をもって、児童用の郷土資料の集積を電子教材として幼児・学校・青少年教育の場で活用させるべく、デジタル化、教材化の事業を実施した。第一段階として児童向け郷土資料5種23点のデジタル化公開を行い、次に、『小学校社会科副読本 北広島』をデジタル化し、見開きページごとに、当事業で公開した資料や様々なウェブサイト、独自に作成した副教材などともリンケージを可能にする教材作成ツールシステムを実装させ、副読本デジタル化の高機能化を図った。

また、完成が近づいてきた段階で、事業の成果であるデジタル郷土資料を広く市民に周知、PRし、活用を促す契機とするため、教育関係者・市民に成果報告を行い、併せて本事業の意義をより深く理解していただくための記念講演会を開催した。



郷土資料デジタル教材化記念講演会の様子

【事業成果】

- ①デジタル技術の進展などの機会を活用して児童期からの郷土学習を容易に進められる環境を創ることができた。
- ②学校におけるICT環境をより有効に活用した教材作成ツールを開発することで、授業の資質向上に貢献することが可能となった。
- ③学校司書をはじめ、地域の学芸員、市広報担当などの地域情報のエキスパートが積極的にデータ作成に参加することで、地域についての新鮮で豊富なデジタル版パスファインダーの作成と提供が可能となった。
- ④外国語学習のテキストや観光案内書など、基盤となる図書を変えることによって様々な学習やまちづくりに活用できる汎用性・拡張性の高いツールとしての期待が持てた。

【今後の課題】

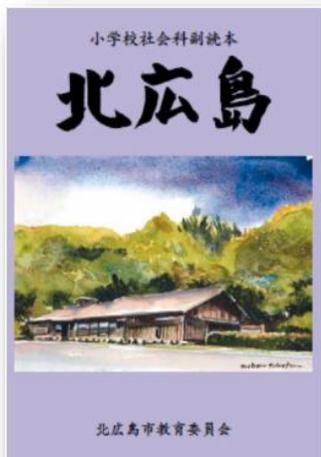
全国の学校教育現場に先行事例がなく、様々な活用事例を積みあげていく中で意見を集約し、ブラッシュアップにつなげる必要があると考えており、当面は、授業での活用を促すような連絡調整を精力的に行っていく。

とりわけ本ツールは管理者側から一方的に情報提供を行うようなデータベースシステムではなく、利用者側が使用することでデータの蓄積と共有が行われる、いわゆる増殖型のデータベースであり、持続性や発展性に優れているが、反面、データに対する統制力が弱く、情報の管理や整理などのメンテナンスが必要となる。運用の体制について教諭の協力を得て運営体制を構築してもらうよう働きかけていく必要がある。



デジタル版小学校社会科副読本「北広島」

「小学校社会科副読本・北広島」の電子化と活用（北広島 k-plat）

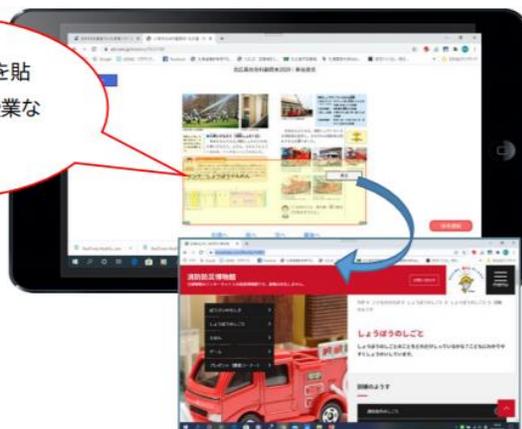


新しい郷土学習の実現

小学校3年生、4年生の「社会」の授業で、自分たちの住む地域について学習するために作られている社会科副読本を電子化し、Ed-comの機能を使い、多様な資料とリンクさせ、授業に活用しています。Google マップやストリートビュー、郷土や文化財に関係する画像、図書館が収集した資料やデジタルアーカイブなどの様々なデジタル素材とつなぐことで、子どもたちの学習の幅が広がり、地域に対する学習意欲の向上が見られます。

「電子版小学校社会科副読本・北広島」

自分なりの教材を貼り付けておき、授業などで活用。



小学校社会科副読本を電子版にすることで、各教室に大画面で投影したり、タブレットでの閲覧が可能になります。画面の拡大・縮小も可能になります。さらに各先生が自作した資料やWebページなどを簡単に貼り付け、呼び出すことができ、作成した資料は他の先生と共有することが可能になります。

教材作成ツール(k-plat)

郷土の学習を担当する市内各教員や図書館司書に、それぞれ IDとパスワードが与えられ、ログインすることで教材の作成が可能となります。

例：GoogleMAPで聖徳太子廟を探し、ストリートビューで、その前に立つような仕掛けを簡単に作ることができます。



成果概要報告書：電子版「小学校社会科副読本・北広島」活用の実践的調査研究事業

課題

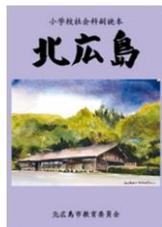
整備が進むICT環境や地域の図書館や博物館などの力を借り、資料や情報探索のゲートウェイとなることで、学校図書館の情報センターとしての機能や有用性を知らしめていく取り組みが必要。

事業のねらい

社会科副読本の内容を補完する資料や情報を学校図書館の蔵書のみならず、WEB上のオープンデータや、図書館員や学芸員が作成する情報源などを簡単に取り込めるようにする電子版を作成、提供し、知識や手法のナレッジ化に地域全体で力を合わせ、取り組む。

取組実施地域・学校の指定

推進地域：北広島市（北海道）
推進協力校：北広島市立大曲小学校・北広島市立緑ヶ丘小学校



実施内容

①電子書籍版「小学校社会科副読本・北広島」教材作成ツール研修会の実施



電子版副読本および教材作成ツールの操作マニュアルを作成し、マニュアルに基づいた研修会、実技講習会を実施する。対象は、副読本編纂委員、小学校3・4年生担当教員、図書館員、約80名。

②電子書籍版「小学校社会科副読本・北広島」を活用した公開モデル授業の実施



推進協力校2校に、電子書籍版副読本を活用した公開モデル授業を依頼。今後の活用の参考事例とする。

③電子書籍版「小学校社会科副読本・北広島」の活用に関与する図書・情報リスト作成

図書館・学校司書が中心となり、活用が見込まれる単元での図書リストを作成し、副読本とリンクさせる。

④電子書籍版「小学校社会科副読本・北広島」の活用に対する報告書の作成と配布

成果

①研修会の開催（参加60名）



緑ヶ丘小学校教員研修会の様子

図書館および市内各小学校で、実技指導講習会等を開催、市内3・4年生担当教員および図書館司書・学校司書が参加。

②公開モデル授業開催と収録2例

大曲小学校3年生「第4章わたしたちの市のあゆみ」



緑ヶ丘小学校4年生「第9章昔から今へと続くまちづくり」



③図書・情報リスト作成

学校図書館・図書館等による情報資源提供を実施。
目標：120件
実績：80件

④報告書作成・配布(100部)



参考資料（２）報道・広報記事一覧

年月日	紙(誌)名	見出し
2020年9月21日号 2面	教育家庭新聞	社会科副読本を電子化 地域学習で調査研究
2020年11月11日朝刊	北海道新聞市内版	社会科副読本 電子版に 黒板に拡大表示、動画も教材
2021年1月1日号	北広島市広報	きたひろいいね 電子版社会科副読本で郷土について学ぶ

教育家庭新聞（2020年9月21日号 2面）

学校図書館活性化
調査研究事業ほか
受託団体が決定

文部科学省の2020年度の新規事業である学校図書館総合推進事業「令和2年度 学校図書館の振興に向けた調査研究事業」の受託団体が、次の通り決定した。▽滋賀県▽和歌山県▽紋別市教育委員会▽我孫子市教育委員会▽市川市教育委員会▽高森町▽(国)北海道教育大学▽(国)東京学芸大学▽(公社)全国学校図書館協議会▽大阪府教育委員会▽北広島市教育委員会

また、継続事業の令和2年度「子供の読書活動の推進」発達段階に応じた読書活動の推進」の受託団体は、次の通り。▽滝川市教育委員会▽安城市▽和歌山県▽福島県教育委員会▽兵庫県教育委員会

社会科副読本を電子化
地域学習で調査研究

北広島市

「学校図書館の振興に向けた調査研究事業」の受託団体の一つ、北広島市教育委員会は、北広島図書館が調査研究を実施する。

同館では昨年度、(公社)図書館振興財団の助成を受け、小学校社会科副読本「北広島」の電子版をクラウド上に制作した。

独自に開発した「副読

本教材作成ツール(Kit Plate)」を搭載。対象資料の見開きページごと、市内の公共・学校図書館の蔵書誌情報、子供向けWebサイト、郷土歴史家の資料、独自に作成した副教材などとのリンクページができることが大きな特徴だ。教員はもちろん市図書館・学校司書、地域の学芸員、市広報担当者などが情報資源の作成に参加が可能となる。

小学校同士での資料の共有化を図ったり、子供の調べ学習を掲載することもできる。授業をより密度の高い、生きた学習に進化させることがねらわれた。

「子供向けに編纂された郷土資料は少なく、副読本は重要な役割を果たしてきた。電子書籍化することで地域や図書館からの情報提供も格段に行いやすくなる。ぜひ、学習に役立てて欲しい」と同館の新谷良文館長は話す。

今回の受託事業はこの「電子書籍版『小学校社会科副読本』の活用に対する実践的調査研究」とするもの。推進協力校等における実際の活用の調査研究を行い、順次市内全域の普及を目指す。

「まずは黒板に投影して授業で活用するケースが先行しつつ、インターネットの接続環境が整い次第、タブレットPC等も利用しながらさまざまな活用につなげたい」。

応募様式

第7回図書館レファレンス大賞への応募事例

1. 事例のタイトル（応募名となります）とタイプ

タイトル（20字程度。副題（サブタイトル）を含めます。） 1964 戸田市の聖火ランナーを追え！
タイプ（あてはまるものを○で囲んでください。） a) 質問・回答の事例 b) 利用促進を図る取り組みの事例

2. 応募者 ※枠の大きさは適宜調整してください。

応募者名 （個人・団体など）	戸田市立中央図書館 指定管理者 TRC・アイルグループ	
代表者名	原田盛夫	
代表者の所属・職名 等	（株）図書館流通センター 戸田市立中央図書館館長	
連絡先	担当者名	八木橋悦子
	〒所在地	〒335-0021 埼玉県戸田市大字新曽 1707
	電話	048-442-2800
	FAX	048-442-2801
	e-mail	lib.trc.toda-chuo@mail.trc.co.jp

（図書館の蔵書冊数について、令和3年3月末日の概数を記入してください。）

応募事例の 図書館名と蔵書冊数	図書館名： 戸田市立中央図書館	蔵書冊数：
	あてはまる館種を○で囲んでください。 公立、学校、大学、専門、公益法人立、 その他（ ）	約 30 万冊

3. 応募事例の実施時期

令和 3年6月 ~ 令和 3年7月 頃

4. 公表について

「1. タイトル (応募名)」および「2. 応募者 (連絡先を除く)」を図書館総合展のホームページ等で公表することに、

同意します 同意しません (あてはまるものを○で囲んでください。)

最終審査に進んだ場合また奨励賞を受賞した場合、「プレゼンテーション動画」「応募書類」を図書館総合展のホームページ等で公表することに、

同意します 同意しません (あてはまるものを○で囲んでください。)

5. a) 質問の詳細と背景／b) 取り組みの趣旨と目的 ※枠の大きさは適宜調整してください。

【質問】

1964年東京オリンピックの時に戸田市を走った聖火ランナーについて知りたい。また聖火ランナーが走ったコースを知りたい。

【背景】

戸田市立中央図書館は同じ建物に、郷土博物館、アーカイブズセンター(旧市史編纂室)が入った複合施設です。

2021年7月～8月に郷土博物館で企画展「1964～戸田に聖火が灯る～」を開催することになりました。戸田ボートコースが1964年東京オリンピックのボート競技会場だった為、当時の資料が郷土博物館とアーカイブズセンターにあります。

【詳細】

郷土博物館の展示内容を決めるにあたり、戸田市内(当時は戸田町)を聖火ランナーが走ったコースを特定するため、当時を知る人を紹介、もしくは聞き取りを依頼されました。

6. a) 図書館からの回答内容／b) 図書館の取り組みの詳細

※枠の大きさは適宜調整してください。

a) 図書館からの回答内容

戸田市内(当時は戸田町)を走った聖火ランナーを探すために、『広報戸田復刻版』に掲載されている記事を確認しました。

『広報戸田復刻版』P250 広報戸田1964年6月「戸田町聖火隊結成 聖火リレー一隊員」

記事により正規の聖火ランナーの他に伴走者の氏名を確認できました。広報の該当記事他に聖火ランナーの氏名を確認できる資料はありませんでした。

広報で掲載されていた名簿から、該当する人を探し聞き取り調査を行いました。その結果、聖火ランナーのルートが分かりました。

b) 図書館の取り組みの詳細

① 広報で掲載されていた名簿から、郷土博物館及び図書聞き取り調査を行いました。亡くなられている方が多く、また高齢化により記憶が曖昧なこともあり、聞き取りは難航しました。

② 図書館では、当時を知っている 82 歳男性に聞き取りをしたところ、戸田の聖火ランナー走者がわかりました。また、実際に伴走者として走った人紹介して頂き、話を聞くことができました。

【聖火ランナー伴走者・75 歳男性から聞き取りしたこと】

- ・ 当時は高校 2 年か 3 年だった
- ・ 弟（当時中学 2 年か 3 年）も一緒に走った
- ・ 予備の聖火を持って走った
- ・ 走ったルートは一部分。板橋側への引継ぎ式には参加していない。
* 走ったルートを現在の地図に記入して頂きました。



- ・ 当時の委嘱状がある。博物館の展示に貸出できるというお話でした。

③ 郷土博物館で戸田市の聖火ランナー最終走者に聞き取り調査をし、聖火ランナーのルートがわかりました。

④ アーカイブセンターで聖火ランナー伴走者と聞いた方に聞き取り調査を行ったところ、オリンピック直後に開催された国体の選手だったことが判明しました。

当時の風潮として「オリンピック開催は如何なものか」という声があり、戸田市は国体に力を入れていた。広報等でも国体の記事が多く、オリンピック関連は少なかったという事がわかりました。

⑤ 図書館で聞き取りしたことと、郷土博物館で聞き取りしたことを合わせて、当時の聖火ランナーのルートがわかりました。しかし裏付けになる資料はなく、市民への聞き取りによる調査での回答となりました。



「1964～戸田に聖火が灯る～」リーフレットより

7. 応募事例がもたらした主な成果・効果（a）， b）ともに）

※枠の大きさは適宜調整してください。

戸田市立郷土博物館で企画展「1964～戸田に聖火が灯る～」が2021年7月17日（土）～9月5日（日）開催され、図書館で聞き取りした75歳男性の聖火ランナー委嘱状が展示されました。



今回の調査により1964年聖火リレーのルートを確認することができました。郷土博物館発行のリーフレットが作成されたことにより、聞き取り調査の結果を今後のレファレンスに役立つ郷土資料として残すことができました。



何より図書館、郷土博物館、アーカイブズセンターが協力して郷土のレファレンスにあたることのできたのが大きな成果であったと思います。

8. 今後の課題や展望（応募したレファレンスサービス事例を踏まえ、今後のレファレンスサービスに対する課題や展望を記入してください。） ※枠の大きさは適宜調整してください。

この度のレファレンスで図書館、郷土博物館、アーカイブズセンターと協力して感じたのは、記録に残っていない郷土の記憶を聞き取り、資料化する必要性で

す。

戸田市は昭和 58 年に埼京線が通り市内に 3 駅が出来てから、人口が増え続けています。それにより古くからの住民の割合が減り、高齢化により郷土の昔のことを知る人が減ってきています。

今回は郷土資料館、アーカイブセンターの職員及び図書館スタッフに地元出身者がおり、聞き取り調査をすることができました。

今後は郷土資料の収集を続けるとともに、地域住民とのコミュニケーションを図り、郷土博物館、アーカイブズセンターとも協力して郷土レファレンスに対応できる体制を整えていきたいと考えています。

(注)

- 1 本様式とは別に参考資料を添付することも認められますが、資料のサイズはA4サイズに統一してください。なお、本様式とあわせて全体で10ページ（10枚）以内に収めてください。
- 2 書類審査を通過した応募書類については、図書館総合展ホームページ等で公表させていただく場合がありますので、本様式の作成にあたっては個人情報の記載等について御留意ください。

4. 公表について

「1. タイトル (応募名)」および「2. 応募者 (連絡先を除く)」を図書館総合展のホームページ等で公表することに、

同意します 同意しません (あてはまるものを○で囲んでください。)

最終審査に進んだ場合また奨励賞を受賞した場合、「プレゼンテーション動画」「応募書類」を図書館総合展のホームページ等で公表することに、

同意します 同意しません (あてはまるものを○で囲んでください。)

5. a) 質問の詳細と背景／b) **取り組みの趣旨と目的** ※枠の大きさは適宜調整してください。

取り組みの趣旨と目的

1. 背景

大学生の不読率の高さが問題となって久しい。CRUMP 東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策センター2019年「大学選抜性と読書量」の調査結果からも、選抜性の高低にかかわらず、日本の大学生の約半数が1か月に1冊も本を読まない「不読」の状況であることが明らかになっている。教員養成大学である本学においても同様の状況が見られ、今回担当した教員(非常勤講師)牧恵子(以下、教員)が、4年生数学科受講生に教室で簡易なアンケートを行った結果、在学中に指定教科書以外の新書を1冊も読んでいない実態がみえた。

昨今、文部科学省は「読解力」や「読書」の課題に大きく注目している。このような状況のなか、将来、教員となる学生たちが不読であることは大きな問題であると捉え、2014年度から図書館職員と教員が共同で継続的に取り組んできた。

2. 図書館職員と教員の連携企画「本嫌いをなしにする74冊」の展示と活用

2-1 教育学部の学生への広範なテーマ「非認知能力の本74冊」

本学は教育系単科大学である。図書館職員、教員ともに、学生全員に向け、最近話題になっている「非認知能力」に関連する本を広範にレファレンスしたいという共通認識があり、2021年3月から計画・準備を開始した。

入学したばかりの1年生には、「なにを読んだらよいのだろう」という問いに応えられる本の紹介、在学生には、読みたい本が読めないままに積読されている状況への働きかけを行う「広義のレファレンス」を目指した。

学内1クラスの受講数が50名前後で構成されている関係から、語呂合わせも加えて「本嫌い74(なし)冊」リスト【参考資料1】を作成し、一人1冊手に取れる状況を作った。2021年4月20日に企画展示をスタートし、展示中の2か月半ほどは、74冊を貸出禁止とし、「読書」を軸にした授業を行った。

図書館にリザーブされた本で読書するには、限られた時間内の効率的な読書が必要になる。そこで、2014年から図書館内で企画展示し、紹介してきた「あらまし読み」¹⁾という読書術を活用した。

2-2 大学生が集まる4月の行事「図書館ガイダンス」

教員の担当クラス（国語科1年生「初年次演習」、数学科4年生「国語科教育A」）を対象に、例年の「図書館ガイダンス」の時間を「本嫌いをなしにする74冊」の企画展示と組み合わせ、刷新した。具体的には、クラスごとに図書館職員・国語科学生ボランティア3名・企画担当の教員が立ち合い、1コマ90分の授業時間を使った「アクティブラーニング型図書館ガイダンス」として以下A～Cの3つのコースに分けて実施した。

A: 図書館職員によるガイダンス

B: 開架本の検索

C: 企画展示74冊の「味見読み」²⁾

「味見読書」は、読書を推進する方法として、昨今、小中学校での実践が見られ、注目を集めている。

展示会場の壁面には、本を読んだ後に書く「情報カード」を掲示するスペースを設けた。大学生は普段手に取らない本にまみれる時間を味見しながら、情報カードに自由にキーワードやひと言感想を書き、掲示した。ガイダンス後も、学生相互に吹き出し付箋を貼り、壁面で相互交流を続けた。

3. 図書館ガイダンス後の「書く」「対話」の学びの継続

図書館ガイダンスを契機として、「授業」による学びを継続した。教員発案の「あらまし読み」を体験させ、書く課題（1冊ずつ300字程度のメモ、800字程度のミニ・レポート、1500字程度の最終レポート）を提出させていった結果、受講生全員が6冊以上の本を手に取り、課題を計画的に進めることができた。（参考資料2）

6. a) 図書館からの回答内容／b) 図書館の取り組みの詳細

1. 本企画展示「本嫌いをなしにする74冊」に至るまでの協力体制

本企画以前（2014年度～2017年度）に、図書館と教員が共同で「あらまし読み」の壁面掲示型の企画展示を行い、教員発案の「あらまし読み」という読書方法を広げようとしていた時期がある。しかし、本の読み方を静かに展示していても、広く学生に浸透させることは難しく、以降、図書館と教員で、学生に積極的に働きかけをしようと計画していた。

コロナ禍の2020年9月～11月、図書館協力のもと、「総合図書館展-Online」³⁾にて「あらまし読み」体験のワークショップ（ZOOM）を開催し、「コロナ禍のOnlineの読書メソッド」を公開した。従来の一人で通読する読書支援を脱却し、参加者がそれぞれ選んだ本を集中して読み、メモ・短く対話するという能動的な読書術⁴⁾を提示することができた。図書館HPには、「あらまし読みシート」⁵⁾や「あらましメソッドガイド冊子」⁶⁾を掲載して、学生や外部の人が利用できるように配慮した。

2. 企画展示の協力

長引くコロナ禍の2021年3月から準備を行った。2020年前期は大学への入構制限があり満足に利用案内ができなかったため、今こそ「図書館」という空間に学生を招き入れようと計画した。テーマは、教育学部の学生全体に働きかける「非認知能力に関心を持とう」とし、教員による選書をもとに、図書館職員が「本嫌いをな

しにする 74 冊」のタイトルを決定した。

74 冊のリストにそって図書を順次購入し、2 か月半の開催中、少しずつ会場整備を充実していった。展示用の壁面の活用や本の展示方法、企画展示空間に融和するテーブルと椅子を置く工夫、展示場から近い「模擬授読ルーム」「キッズライブラリー」などの場所を活用し、コロナ禍であっても、図書館の空間を比較的自由に活用できる工夫を続け、授業の補助を行った。

ガイダンスでは図書館職員が図書館の案内を担当し、愛知教育大学全体の学生やほかの教員に対しても、プリント配布や広い範囲で声かけを行うなどの広報活動を実施し、幅広く読書することを勧めていった。

また、本企画を学内外に広く発信し、文部科学情報「文教ニュース」No. 2635 にも掲載された。

企画展示終了後も、10 月まで「あらし読み」コーナーは一定のスペースを残し、そこに「味見読書」で得られた学生の読みの「情報カード」や「コメント付箋」を展開する。展示後、本の貸出禁止を解いたが、8 月 18 日現在で、40 冊が貸出されている状況である。

7. 応募事例がもたらした主な成果・効果 (a), b) とともに)

※枠の大きさは適宜調整してください。

本事例の成果

1. 学生の「不読」解消

授業のなかで提出された読書記録によって、1 か月に 2 冊以上の読書を行ったことが明らかになった。図書館調査によると、「味見読書」で得られた学生の読みの「情報カード」111 枚、「コメント付箋」84 枚であった。

読んだ本を、他の科目受講のレポート作成にも活用できたことが報告されている。

2. 学生の活動への「振り返りレポート」(メタ認知記録)からの成果

2021 年 4 月～10 月開催の本事例の成果は、授業を通して書かれた「レポート」類、「振り返りレポート」や「アンケート」結果などを検証することで報告するべきである。しかし、それには現時点で時間が不足しているため、1 年生学生に自由記述してもらった「振り返りレポート」から聞こえてくる声を、以下の 5 つのグループに整理することで報告したい。(著作権の許可承諾済)

(1) 読みのハードルが下がった

・「この授業で、全部をはじめから読まなくてもいいという意見を聞き、今までの私が思っていた『読書』がかなり変わったことを今でも覚えています。それにより、読書を徐々に始めることへのハードルが下がり、もっと読みたいという気持ちになりました。」

・「『あらし読み』で、広く「面読み」することで本全体の内容をつかむことができる。『あらし読み』のステップを 1 つ入れるだけで、新書に対する抵抗感やハードルがぐっと下がったように感じた。」

(2) 「読書」の途中の可視化

・「ただ読むだけでなく、読んだことをマップなどにメモし、可視化するという作業が重要だということも学んだ。これによって、頭の中が整理され自分の考えも明確になっていくということが体験できた。」

・「『構成表』⇒『ミニ・レポート』⇒『最終レポート』という順序で、最終レポートを完成していく過程が楽しかった。最初は1000字を超えるレポートを書き上げるのは無理だと思ったが、段階を踏んで最終レポートを形作っていくことで、完成までたどり着くことができた。」

(3) 図書館で静かに集中して読むことの一方で、教室やラーニングコモンズなどで交流することを身につける

・「話すことの重要性である。『あらし読み』のあと、自分の言葉でまとめて相手に伝えることで、より自分の言いたいことが明確になった。」

・「自分とは異なる価値観をもつ友達とのディスカッションを通して、新しい世界を垣間見ることができた。同じ本でも人によっては解釈の仕方が異なったりしたりして面白いなと思った。これからも恐れずにいろいろな人と意見の交流をしていきたい。」

(4) 同じテーマの本を複数冊読んでみることの意義を知る

・「初年次演習を通じて非認知能力に関する書籍を7冊、そのほかの授業に関する書籍を5冊読みました。5冊の方は、あらし読みの技法を使うことができたため、効率的に論旨に沿った内容を見つけ出すことができました。」

・「新書は今まであまり読んだことがなく、近寄り難い存在であった。しかし、この初年次演習を通して、いろいろな新書を見たことで専門書や教養書を読むことへの抵抗をなくすことができた。2021年度前期で、読書の幅が大きく広がったのである。」

(5) 読みたい、考えたいというモチベーションの持続

・「読書は一瞬の感動の生成だけでなく、長期にわたるモチベーションの向上にも役立つと知った。」

・「あらし読みをすることで、『本を読む』ということに対しての抵抗が少なくなったため、以前よりも積極的に読書していきたいです。今まで興味はあったけど、なんとなく難しそうで読むことのなかったジャンルの本に挑戦してみたいと思います。」

・「入学後、一人暮らしを始めたことや部活やバイトもあり時間がありませんでした。しかし、初年次演習があったために本に触れる機会はゼロにはなりません。最終レポートをきっかけに、寝る前の数分を読書にあてる日も出てきました。」

8. 今後の課題や展望（応募したレファレンスサービス事例を踏まえ、今後のレファレンスサービスに対する課題や展望を記入してください。） ※枠の大きさは適宜調整してください。

今後、愛知教育大学附属図書館は、レファレンスサービスの大きな契機となった「本嫌いをなしにする74冊」のテーマである「非認知能力」に関する本のさらなる選定、「アクティブラーニング型図書館ガイダンス」の開講、企画展示の開催、学生の読みを記した情報カードとOPAC情報とを関連づける作業などを継続していくことを課題としたい。

また、今期を機に定年退職する担当教員は、2021年11月「図書館総合展 Online-plus」に出展し、自主学習グループ arama 会のメンバーと、日本全国に「あらまし読み」を呼び掛けていく予定である。平野多恵教授（成蹊大学文学部）、宮武里衣准教授（美作大学生生活科学部）、延沢恵理子教員（山形県東桜学館中学校・高等学校）との協力のなかで、「あらまし読み」のワークショップを継続する。また、「あらまし読み」のワークショップに参加した高校教員が、教育現場ですでに実践を始めている報告を受けている。本学附属図書館も、「あらまし読み」のネットワークの中に入り、連携を続けていく予定である。

【注】

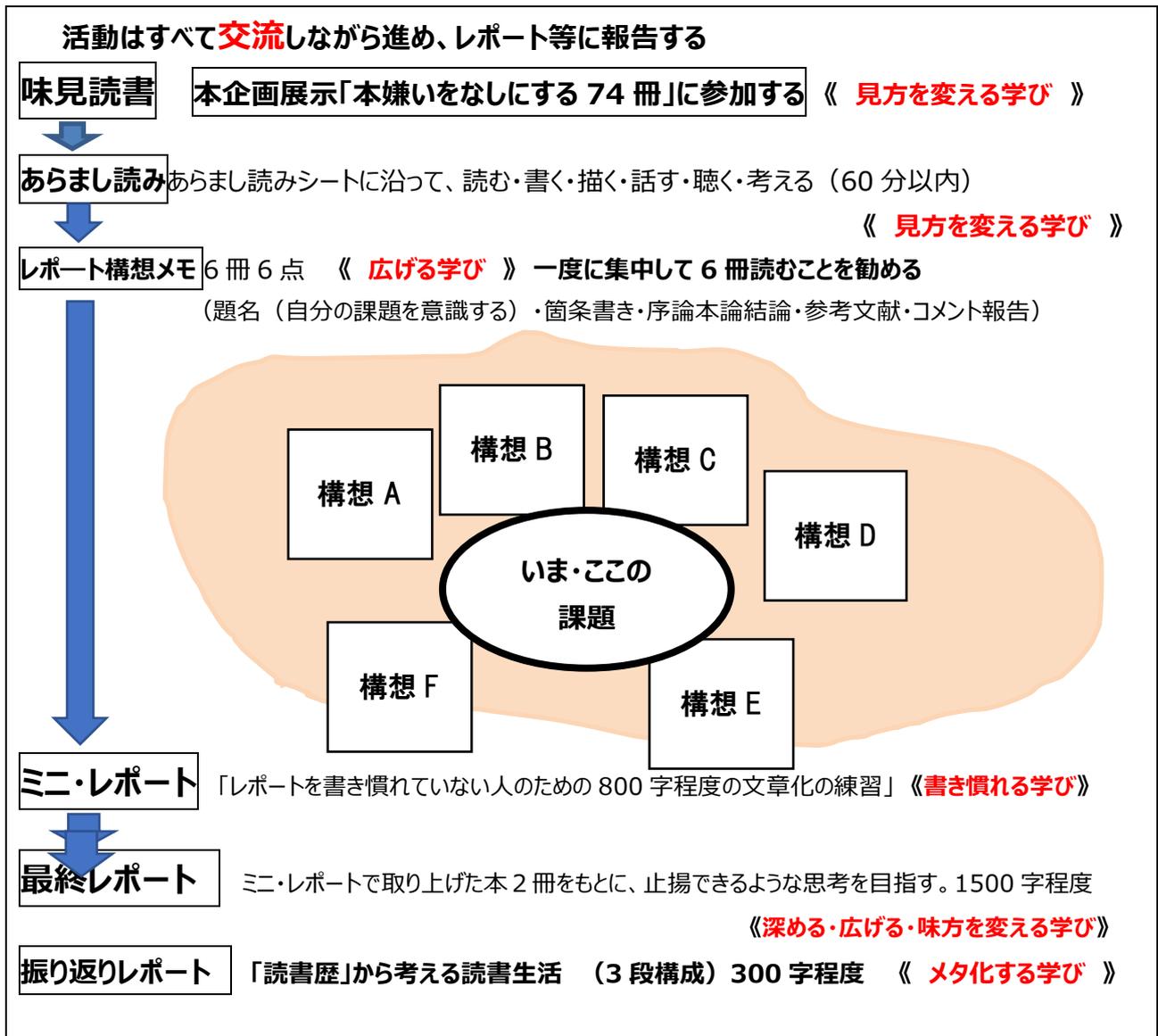
- 1) 「あらまし読み」とは、新書などの目次のついた大学で学ぶことにつながる本を対象として、60分程度で、1冊の一部分を集中して読みながら、メモや対話を繰り返すというオリジナルな読み方である。詳しくは、牧恵子（2014）『学生のための学び入門—ヒト・テキストとの対話からはじめよう—』ナカニシヤ出版 第3章にある。
- 2) 「味見読書」は、熊倉峰広（2003）『「味見読書」で本離れが無くなる！』で使われていた用語である。小中学生レベルの「味見読書」がある一方で、高大生レベルでは、もう少し本に分け入って、スキミングできるような方法の必要性を感じた。そこで、石黒圭（2010）の「話題ストラテジー」「取捨選択ストラテジー」の応用、英語学習の Graded Readers を分析調査（牧恵子「英語多読方法の調査と日本語多読への応用」, 愛知教育大学大学院「国語研究」27.）し、読書用ワークシート「あらまし読みシート」を作成した。
- 3) 第22回「図書館総合展—Online」に出展し、4回の「あらましメソッド ONLINE」という名称で ZOOM 形式ワークショップを4回開催した。<https://www.libraryfair.jp/>
- 4) 2020年11月、大学 ICT 推進協議会から「あらましメソッド Hybrid」が New Normal な時代の教育・研究を考えていく上で大変参考になる事例の一つに認定された。しかし、企業提携でアプリを作成しても、学生や生徒が本を読むようにはなる保証が得られないと考えている。「あらまし読み」という方法を学生や生徒に紹介し、各自が自主的に対話交流し、「図書館」のラーニング・コモンズをフルに活用していくように推進したい。本レファレンスの目的はそこにある。
- 5) 愛知教育大学附属図書館 HP 内に「あらまし読みシート」を掲載している。
<http://www.auelib.aichi-edu.ac.jp/info/index.html#a146>
- 6) 愛知教育大学附属図書館 HP 内に、「あらましメソッド」（ガイド冊子）を掲載している。
<http://www.auelib.aichi-edu.ac.jp/info/index.html#a146>

【参考資料1】「本嫌いをなしにする74冊リスト」

1	学校の大問題	石川一郎
2	スタンフォードが中高生に教えていること	星友啓
3	コロナ後の世界を語る 現代の知性たちの視線	朝日新聞社・編
4	コロナ後の教育へ	苅谷剛彦
5	ことばの教育を問いなおす	鳥飼玖美子・苅谷夏子・苅谷剛彦
6	ケーキの切れない非行少年たち	宮口幸治
7	AI に負けない子どもを育てる	新井紀子
8	いま大学で勉強するということ	佐藤優・松岡敬
9	AI VS. 教科書が読めない子どもたち	新井紀子
10	やる気はどこから来るのか	奈須正裕
11	考える・集中・思考力	追手門学院大学 成熟社会研究所編
12	問題発見力を鍛える	細谷功
13	伸びる子どもは〇〇がすごい	榎本博明
14	考えるとはどういうことか	梶谷真司
15	脳を守る、たった1つの習慣	築山節
16	リベラルアーツの学び	芳沢光雄
17	いい緊張は能力を2倍にする	樺沢紫苑
18	メタ思考トレーニング	細谷功
19	目の見えない人は世界をどう見ているのか	伊藤亜紗
20	学生のための学び入門	牧恵子
21	算数と国語を同時に伸ばす方法	宮本哲也
22	仕事が早くなる！読み書き&思考術	日本能率協会マネジメントセンター
23	新書3冊でできる「自分の考え」のつくり方	奥野宜之
24	数学力は国語力	齋藤孝
25	科学的とはどういう意味か	森博嗣
26	ハッピーになれる算数	新井紀子
27	つまずき克服！数学学習法	高橋一雄
28	考える力をつくるノート	茂木健一郎・箭内道彦ほか7名
29	「Why型思考」が仕事を変える	細谷功
30	使える学力 使えない学力	田中保成
31	1分で大切なことを伝える技術	齋藤孝
32	消える学力、消えない学力	田中保成
33	脳が冴える15の習慣	築山節
34	成功術 時間の戦略	鎌田浩毅
35	知的複眼思考法	苅谷剛彦
36	思考の整理学	外山滋比古
37	本には読む順番がある	齋藤孝
38	独学大全	読書猿
39	本を読めなくなった人のための読書論	若松英輔
40	読書する人だけがたどり着ける場所	齋藤孝
41	世界一やさしい読書習慣定着メソッド	印南敦史
42	1冊20分読まずに「わかる！」すごい読書術	渡邊康弘

43	本を読むだけが手にするもの	藤原和博
44	読む技術	塚田泰彦
45	読めば読むほど頭がよくなる読書術	園善博
46	読書は1冊のノートにまとめなさい	奥野宜之
47	文系のための理系読書術	齋藤孝
48	本を味方につける本	永江朗
49	脳を創る読書	酒井邦嘉
50	つながる読書術	日垣隆
51	「読む」技術	石黒圭
52	多読術	松岡正剛
53	理科系の読書術	鎌田浩毅
54	わかったつもり	西林克彦
55	「味見読書」で本離れが無くなる！	熊倉峰広
56	本を読む本	アドラー/ドーレン（外山滋比古/榎未知子訳）
57	読んだ分だけ身につくマインドマップ読書術	大岩俊之
58	200字の法則 伝わる文章を書く技術	向後千春
59	すべての仕事を紙1枚にまとめてしまう整理術	高橋政史
60	非論理的な人のための論理的な文章の書き方入門	飯間浩明
61	思考力の方法	外山滋比古
62	「察しのいい人」と言われる人は、みんな「傾聴力」をもっている	佐藤綾子
63	いちばんやさしい教える技術	向後千春
64	わかりあえないことから	平田オリザ
65	傾聴術	小宮昇
66	ニッポンには対話がない	北川達夫 平田オリザ
67	言いたいことが確実に伝わる17秒会話術	安田正
68	話し上手 聞き上手	齋藤孝
69	対話をデザインする	細川英雄
70	教材に「しかけ」をつくる国語の授業10の方法（文学アイデア50）	桂聖編著
71	教材に「しかけ」をつくる国語の授業10の方法（説明文50）	桂聖編著
72	国語授業のユニバーサルデザイン	桂聖
73	論理が身につく「考える音読」の授業（文学アイデア50）	桂聖編著
74	論理が身につく「考える音読」の授業（説明文アイデア50）	桂聖編著

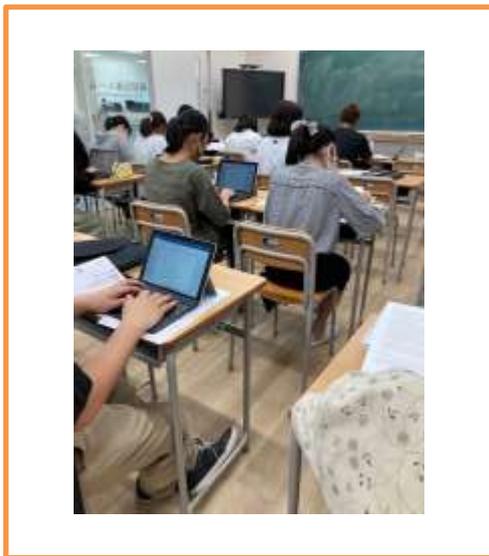
【参考資料 2】 企画展示から応用活動の流れ



【 2021 年度企画展示「本嫌いをなしにする 74 冊」の活動風景 】



愛知教育大学附属図書館企画展示 2021.05.25
「味見読書」後の情報カード展示風景



図書館内「模擬授業ルーム」スペースで
自分の課題に向かってPC入力中



図書館内で学ぶことが習慣に

応募様式

第7回図書館レファレンス大賞への応募事例

1. 事例のタイトル（応募名となります）とタイプ

タイトル（20字程度。副題（サブタイトル）を含めます。） 専門学校教職員に対する教育活動支援：専門的なレファレンス事例を通して
タイプ（あてはまるものを○で囲んでください。） a) <u>質問・回答の事例</u> b) 利用促進を図る取り組みの事例

2. 応募者 ※枠の大きさは適宜調整してください。

応募者名 （個人・団体など）	学校法人大和学園 太秦キャンパス情報ライブラリー
代表者名	田中 幹人
代表者の所属・職名 等	京都調理師専門学校 京都製菓製パン技術専門学校 校長
連絡先	担当者名 上岡 暁子
	〒所在地 〒616-8083 京都市右京区太秦安井西沢町4番5
	電話 075-802-0191
	F A X 075-802-6061
	e-mail akiko.ueoka@taiwa.ac.jp

（図書館の蔵書冊数について、令和3年3月末日の概数を記入してください。）

応募事例の 図書館名と蔵書冊数	図書館名： 太秦キャンパス情報ライブラリー あてはまる館種を○で囲んでください。 公立、学校、大学、 <u>専門</u> 、公益法人立、 その他（ ）	蔵書冊数： 約 1万冊
--------------------	--	--------------------

3. 応募事例の実施時期

平成 <u>令和</u>	元年 10 月	～	平成 <u>令和</u>	元年 12 月 頃
-----------------	---------	---	-----------------	-----------

4. 公表について

「1. タイトル（応募名）」および「2. 応募者（連絡先を除く）」を図書館総合展のホームページ等で公表することに、

同意します 同意しません （あてはまるものを○で囲んでください。）

最終審査に進んだ場合また奨励賞を受賞した場合、「プレゼンテーション動画」「応募書類」を図書館総合展のホームページ等で公表することに、

同意します 同意しません （あてはまるものを○で囲んでください。）

5. a) 質問の詳細と背景／b) 取り組みの趣旨と目的 ※枠の大きさは適宜調整してください。

<質問の詳細>

コンクールの課題（コック・オ・ヴァンの自由な表現）でメニュー考案に取り組んでおり、リエーブル・ア・ラ・ロワイヤルの調理法を取り入れたいと考えている。様々な赤ワイン煮込みについても深く知りたいので、参考となる資料を利用したい。

<質問の背景>

質問者の所属・職名：京都調理師専門学校 西洋料理 助手職員

コンクール参画主旨：教職員研修の一環として助手職員が、技術の向上と研鑽、今後のコーチング・インストラクション技術に役立てることを目的に参画

コンクール名：第1回フランス伝統料理・継承コンクール

趣旨：近年進化し続けるフランス料理の基盤となる古典料理、地方料理の伝統の後世への継承と、青年司廚士の調理技術の向上と知識の習得を目的とする料理コンテスト

対象者：京都のホテル、レストラン等で西洋料理に従事する35歳以下の調理人

実施内容：レシピ提出、レシピ審査、実技審査（調理作業・作品試食）

6. a) 図書館からの回答内容／b) 図書館の取り組みの詳細

※枠の大きさは適宜調整してください。

<回答内容>

調査種別：文献紹介

キーワード：コック・オ・ヴァン、coq au vin、鶏の赤ワイン煮、鶏料理、リエーブル（リエーヴル）・ア・ラ・ロワイヤル、lièvre à la royale、野うさぎ、ジビエ料理、フランス料理、フランス古典料理、フランス地方料理、西洋料理

回答：当ライブラリー所蔵資料から下記を提供した。

① コック・オ・ヴァン、様々な赤ワイン煮込みのレシピ等が掲載されている資料
・『最新鶏料理 さばき方から加熱までがよくわかる：定番と部位別アレンジ82品』（柴田書店, 2016. 4）
p. 75-77 「鶏の赤ワイン煮」 写真付きレシピ

・『ボキューズの食卓』（ミュゼ, 2013. 7）
p. 188-189 「コック・オ・ヴァン（雄鶏の赤ワイン煮）」 写真付きレシピ

- ・『グルメのためのトゥール・ド・フランス フランス地方料理を知る本』（六甲出版, 1998. 12）
- p. 50 ミディ・ピレネーの地方料理「コッコーヴァン」 写真付きレシピ
- ・『素描するフランス料理 ル・マンジュ・トゥー』（柴田書店, 2003. 1）
- p. 66-74 「リエーブル」写真付き 野うさぎの調理法とレシピ
- p. 136-137 「鯉の赤ワイン煮込み」写真付きレシピ
- p. 152-153 「牛タンの赤ワイン煮込み」各種 写真付きレシピ

- ② リエーブル・ア・ラ・ロワイヤルの調理法やレシピ等が掲載されている資料
- ・『フランス料理百科 III 肉料理 肉 家禽 野禽』（白水社, 1986. 2）
- p. 332-333 「野うさぎのロワイヤル風」 写真付きレシピ

- ・『魂のひと皿 素材に命を吹きこむ』（旭屋出版, 2019. 2）
- p. 10-15 「野うさぎの宮廷風」「野うさぎのシヴェ ロワイヤル風」写真付き 料理説明
- p. 162-165 レシピ

- ・『ジョエル・ロブションのすべて』（ランダムハウス講談社, 2009. 10）
- p. 548-549 「lièvre リエーブル」説明
- p. 549 野ウサギのロワイヤル、クトー上院議員風 レシピ

- ・『2005 La Cuisine Française au Japon Vol. 2 Gibiers et viandes』（桐朋出版, 2005. 6）
- p. 130-131 「野ウサギのロワイヤルのテリーヌ仕立て 血入りソース・トリュフ風味 栗ときこのカネロニ添え」写真付きレシピ
- p. 130-131 「リエーヴルのバロティエヌ ソース・ポワヴラード」写真付きレシピ

- ・『2005 La Cuisine Française au Japon 別巻 ジビエの下処理』（桐朋出版, 2005. 6）
- p. 44-51 「リエーヴル」写真付き 野うさぎの調理法
- p. 58-59 「リエーヴル・ア・ラ・ロワイヤル」写真付きレシピ

7. 応募事例がもたらした主な成果・効果（a), b)ともに）

※枠の大きさは適宜調整してください。

1. コンクールの入賞

令和2年(2020年)実施の第1回フランス伝統料理・継承コンクールでは、本校からエントリーした教職員が1位と2位を独占した。質問者はコンクール2度目の挑戦で1位入賞を果たし、審査員から「古典料理、地方料理を深く理解できている」と高評価を受けた。

ライブラリーのレファレンス支援を活用することで、効率よく情報収集を行い、計画的にスケジュールを組み、メニュー考案に取り組んだこと、またレファレンスにより探し出された数多くの専門書を深く読み解き、課題解決に取り組んだことで得た学びを作品に生かしたことなどが1位入賞を果たした一つの要因と思われる。

その後、質問者は令和3年(2021年)7月にコンクールの成績などが認められ、主催団体より表彰を受けた。現在も次のコンクールに挑戦するなど日々自己研鑽に励んでいる。



コック・オ・ヴァン ロワイヤル風 (1位入賞作品)

2. 専門学校教職員に対する教育活動支援の充実

当ライブラリーは、平成30年(2018年)の開設初年度より、学生の貸出、閲覧、レファレンス利用が好調だったのに対し、教職員の利用が少ないのが課題であった。特に実習担当助手職員は勤務時間内に来館しにくい状況であったが、教職員と対話を重ね、教職員側からもレファレンスサービスの周知を行う等利用促進の取り組みを続けることにより、徐々に認知され、開設2年目には教職員のレファレンスを活用したライブラリー利用が伸び始め、時折専門的なレファレンスにも対応するようになった。

当事例の質問者は課題に取り組む段階で、多くの教職員と情報を共有し、ライブラリー活用など日々の研鑽を大切にしよう助言、指導を受けていた。教職員がライブラリーを学習・教育支援機関であることを認識し、課題解決の為にライブラリーの情報を利用するよう促し、質問者自身がライブラリーを利用することにより得た学びを学生の教育支援につなげることを目標に研修に意欲的に取り組んでいる様子等から、教職員に対する教育活動支援の充実がライブラリーに期待されていることを確認することができた。

3. 専門的資料の整備と提供

今回のレファレンスによる資料提供により、当ライブラリーの所蔵資料にはフランス古典料理に関する貴重な文献が数多くあることが発見された。また、提供した資料の多くが旧校舎の未整理資料であったことが確認され、平成30年(2018年)のライブラリー開設に伴う資料の整備、保存、情報公開により、利用促進、レファレンスの充実が図られ、資料保存の重要性について周知と啓発を図るなどの効果を得た。

4. 司書のレファレンス能力の向上

当事例のレファレンスを受けたことで、専門的資料や調査研究に対するニーズがあることが明らかになった。また、司書が利用者との対話により聞き出した情報を元に必要かつ適切な情報を探し出し、質問への回答が可能になるというレファレンス利用の体験が共有され、レファレンスサービスを行う機会が増加し、司書はより高度な内容のレファレンスに応える為、日常的に専門的な知識と技術を積極的に習得するようになった。

8. 今後の課題や展望（応募したレファレンスサービス事例を踏まえ、今後のレファレンスサービスに対する課題や展望を記入してください。） ※枠の大きさは適宜調整してください。

1. 書誌データ機能の強化

レファレンスに迅速に対応し、利用者に必要な情報を提供する為には質の高い書誌データが必要である。

効率よく目的の本に近づけるように、作成された書誌データが必要な情報のアクセスにどのように役立っているかについて検証をするなど、目録作成とレファレンスの関係も理解した上で、目録データの整備を進めていきたい。

2. レファレンス業務の効率化

当ライブラリーはレファレンスの受付件数が大変多く、内容も多種多様且つ専門的でその記録や紹介、利活用方法が課題である。

自館のレファレンス回答データベースの構築や、グループ校ライブラリーと連携して「レファレンス共同データベース」に参加するなど、レファレンス記録の公開についても検討したい。

3. レファレンスサービスの利用促進

利用促進について、ライブラリーからはメール配信によるサービス内容や事例を紹介し、教職員からは学内コンクール説明会でライブラリーの活用方法を案内するなど積極的な周知を続けた結果、レファレンスサービスが徐々に認知されるようになったが、例年特定の利用者がリピーター利用するケースが多い。

学生からレファレンスの体験を紹介するなど利用促進を工夫し、できるだけ多くの利用者の利用につなげたい。

4. レファレンスサービスの新しい仕組みやサービスの導入

昨年度より非来館型サービスとして、メールによるレファレンスの利用促進を行った結果、これまで開館時間に来館が難しかった夜間部の学生や教職員の利用が増えた。今後は、AIチャットボットサービスなど新しいサービスの導入を見据え、最新動向を調査し、その有効性や可能性について検証していきたい。

(注)

- 1 本様式とは別に参考資料を添付することも認められますが、資料のサイズはA4サイズに統一してください。なお、本様式とあわせて全体で10ページ（10枚）以内に収めてください。
- 2 書類審査を通過した応募書類については、図書館総合展ホームページ等で公表させていただく場合がありますので、本様式の作成にあたっては個人情報の記載等について御留意ください。

4. 公表について

「1. タイトル (応募名)」および「2. 応募者 (連絡先を除く)」を図書館総合展のホームページ等で公表することに、

同意します

同意しません

(あてはまるものを○で囲んでください。)

最終審査に進んだ場合また奨励賞を受賞した場合、「プレゼンテーション動画」「応募書類」を図書館総合展のホームページ等で公表することに、

同意します

同意しません

(あてはまるものを○で囲んでください。)

5. a) 質問の詳細と背景／b) 取り組みの趣旨と目的 ※枠の大きさは適宜調整してください。

b) 取り組みの趣旨と目的

2020 年度はコロナウイルス感染症拡大防止対策として、利用者には来館の事前予約制、対面によるレファレンスサービス停止といった制限、カウンタースタッフや職員においても出勤人数の制限があった。そこで、①オンライン窓口の開設と、②在宅勤務に対応したレファレンスチームによる調査体制の構築を行ない、非来館型サービスの拡充を目指した。

6. a) 図書館からの回答内容／b) 図書館の取り組みの詳細

※枠の大きさは適宜調整してください。

b) 図書館の取り組みの詳細

①オンライン窓口の開設

コロナ禍による非来館型サービスの拡充のため、本学図書館システム「ネオシリウス」に備わっていたレファレンス機能を用いて、My Library (利用者専用ページ) に申込フォームを開設した。オンラインレファレンスの開始に向けて、A. 利用者との連絡方法、B. 既存サービスと同等のサービス内容の実施、の2点に重点を置いた。A. 利用者との連絡方法については、記録に残り資料も添付できるメールでの連絡を主とした。B. 既存サービスと同等のサービス内容の実施については、対面での質疑応答や操作説明、画面共有ができるように、学内の ICT 環境 (Office365・Teams) を活用することにした。

②Teams を活用したレファレンス調査体制の構築

担当者が在宅勤務時でも調査ができるように、学内 ICT 環境 Teams のチーム機能を活用して、調査の進捗状況や資料が共有できる体制 (環境面・運用面) を構築した。環境面では、これまで使用していた手書きの連絡票をオンライン上で編集しやすいフォーマットに変更し、調査した内容を詳細に入力できるようにした (添付資料. 1)。運用面では、情報整理に重点を置き、Teams のチームに備わっているチャンネル・メンション機能を活用している。

チャンネル機能・・・チーム内における特定の内容や目的に合わせて使用するも

の。本学では、受付期間毎にチャンネルを作成している。

メンション機能・・・特定のメンバーにメッセージを通知する機能。本学では、担当者全員にメンションする運用としている。

7. 応募事例がもたらした主な成果・効果（a）， b）ともに）

※枠の大きさは適宜調整してください。

①オンラインによる相談窓口の開設

コロナ禍でカウンターサービスを制限しつつも、レファレンスサービスを拡充することができた。また、申込がオンラインになったことで、利用者の好きなタイミングで依頼をすることが可能になった。

・ 申込件数

2020/10～2021/3 4件

2021/4～2021/8 10件

②Teams を活用したレファレンス調査体制の構築

情報の整理・共有が格段に向上した。調査内容を編集可能なデータ（添付.2）として管理しているため、回答済みの事例を容易に活用する事ができる。また、ブラウザ上で情報共有が可能のため、複数人が同時に調査をすることができ、キャンパスの垣根を越えて作業に当たる事ができるようになった。その結果、両キャンパス（品川・熊谷）の資料を活用した調査が実現した。

・ 調査件数

2020/10～2021/3 6件

2021/4～2021/8 12件

8. 今後の課題や展望（応募したレファレンスサービス事例を踏まえ、今後のレファレンスサービスに対する課題や展望を記入してください。） ※枠の大きさは適宜調整してください。

①オンライン窓口の開設

課題：対面式での受付ではないため即時回答が難しくなった。また、依頼者の意図（潜在的質問）を引き出す為に時間を要する。

展望：利用者がカウンターやレファレンスに相談する前に、自己完結できるような動画等の資料を充実させたい。利用方法や申込フォーマットを見直し、依頼者と担当者双方の意図が伝わりやすいようにしたい。

②Teams を活用したレファレンス調査体制の構築

課題：運用の合理化を常に検討し、新規メンバーが容易に加わる体制の構築。

展望：コロナ禍が終息した後も継続できる運用としたい。

（注）

1 本様式とは別に参考資料を添付することも認められますが、資料のサイズはA4サイズに統一し

てください。なお、本様式とあわせて全体で10ページ（10枚）以内に収めてください。

2 書類審査を通過した応募書類については、図書館総合展ホームページ等で公表させていただく場合がありますので、本様式の作成にあたっては個人情報の記載等について御留意ください。

4. 公表について

「1. タイトル (応募名)」および「2. 応募者 (連絡先を除く)」を図書館総合展のホームページ等で公表することに、

同意します

同意しません

(あてはまるものを○で囲んでください。)

最終審査に進んだ場合また奨励賞を受賞した場合、「プレゼンテーション動画」「応募書類」を図書館総合展のホームページ等で公表することに、

同意します

同意しません

(あてはまるものを○で囲んでください。)

5. a) 質問の詳細と背景／b) 取り組みの趣旨と目的 ※枠の大きさは適宜調整してください。

5. 1. 立正大学古書資料館の特徴

立正大学古書資料館（以下、「古書資料館」）は、江戸時代の和古書をはじめ、貴重書、特殊資料（卷子本・折本・函もの・一枚物）、洋古書等を所蔵する開架中心の古書の専門図書館である。大学隣接の附属中学・高等学校が移転したため、中・高図書室の跡地に、従来大学図書館の閉架書庫に収蔵していた古書 1 万タイトル約 4 万 5 千冊を移設し、平成 26 年に開館した。古書の利用という特別な手続きを必要とする館が多い中、所蔵資料の 8 割以上にあたる、約 3 万 8 千冊を開架で提供している点が特徴である。平時は大学の構成員（学生、教職員）のみならず、学外の研究者や一般の方も閲覧利用することができる。

古書資料館開館の目的は、「古書の魅力を多くの人に知っていただき、親しみ、活用してもらう」ことにある。古書資料館を開館するまで、所蔵する古書は図書館の閉架書庫という知る人ぞ知る場所に大切に保管しており、利用の中心は一部の研究者や大学院生に限られていた。そこで、より多くの人に資料の存在を周知するため、蔵書の大半を開架で提供することに決めた。古書という専門性が高く、難しい、敷居が高いというイメージがあるかもしれないが、利用者自身が直接書架から取り出せるという環境を提供することで、気軽に古書に親しむ機会になりうるのではないかと考えている。そして、最終的に、古書の活用へと繋げていくことができるよう、古書に関するサブジェクトライブラリアン（専門員）1 名を中心に、担当職員と協力しながら、多様で幅広いレファレンス質問に対応できる体制を整えている。

5. 2. レファレンス利用促進のための取り組みとコロナ禍での新たな打開策

古書資料館ではこれまで「蔵書の大半を開架で提供」、「古書に親しむ講座の開催」という大きく 2 つのレファレンス利用促進のための取り組みを実施してきた。糸賀雅児¹⁾も“司書の能力とサービス意欲の高さ”に加えて、“レファレンス質問を増やす最大の要因は、蔵書（特に開架）の量と質”にあることを指摘している。ところが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、古書資料館は令和 2 年 4 月から令和 3 年 3 月まで休館、その後も学内者のみの事前予約利用制の制限付き開館となり、多くの人に蔵書を周知し、親しみ、活用してもらうための「開架で古

書」という特徴が活かさない状態が続いていた。

また、齋藤泰則²⁾は、今後のレファレンスサービスにおいて、1回限りの質問回答で完結する“即答型の直接サービス”ではなく、“コンサルテーション型の継続的サービス”が必要になると述べている。ここでいうコンサルテーションとは、“利用者の特定のニーズを充足するために図書館員によってなされる、情報源の推薦・解釈・評価からなる”ものとしている。糸賀¹⁾も、図書館での“持続する<学び>”、すなわち“時間をかけて多面的・重層的に<学び>を深めていく行為”が今後ますます重要になってくるとし、齋藤のいう“情報源”としては、“図書館資料だけでなく、非所蔵の出版物や講座・講演、各種イベント、ネットワーク上の情報源、さらには博物館や人物、ときには文化・芸術・スポーツなどのパフォーマンスまでも含めて考えてよい”と述べている。さらに、“図書館員によって支援されるべきことは、それらの「推薦・解釈・評価」以前に、まずそうした「情報源」の探索、案内、紹介、同定、そして可能であれば図書館での提供が考えられる”と指摘している。

古書資料館においても、複数寄せられていた「古書に興味はあり利用してみたいが、まずは触れるきっかけが欲しい」というニーズを満たすこと、さらには古書を活用し、継続的な学びへと繋げてもらうことを目的に、一般の方も対象とした対面・集合型の「古書に親しむ講座」（受講料無料）を平成28年より継続的に開催してきた。しかしながら、本講座も新型コロナウイルスの猛威により、講座の途中で中止を余儀なくされ、同様の形式での開催は難しい状況が続いていた。そこで、これまでの取り組みを下記の別の形で提供することにした。

■ 蔵書の大半を開架で提供

⇒オンライン上で「開架で古書」を堪能できるバーチャルツアーを公開

■ 対面・集合型の講座

⇒通信型の古書に親しむ講座を開催

<引用文献>

1) 糸賀雅児. “日本のレファレンスサービス 七つの疑問”. レファレンスサービスの射程と展開. 根本彰ほか編. 日本図書館協会, 2020, p. 218-256.

2) 齋藤泰則. 公共図書館におけるレファレンスサービスの動向と課題. 図書館雑誌. 2015, vol. 109, no. 5, p. 277-279.

6. a) 図書館からの回答内容／b) 図書館の取り組みの詳細

※枠の大きさは適宜調整してください。

6. 1. オンライン上で「開架で古書」を堪能できるバーチャルツアーを公開

自館でバーチャルツアーを作成し、令和3年4月、立正大学図書館ホームページ上に公開した。(https://www.ris.ac.jp/library/kosho/introduction.html)

古書資料館バーチャルツアーの最大の特徴は、館内の様子を360度視点で見渡せることに加えて、ツアー上で書架をブラウジングし、所蔵タイトルをも確認できる点である。主な特徴の詳細を下記にまとめた。

■バーチャルツアー上で書架のブラウジングが可能

バーチャルツアーでは館内全体を見渡し、古書に囲まれた世界を疑似体験することができる。書架には【図1】のように、和装本のアイコンが表示される。それらのアイコンをクリックすると、各帙に番号が振られた書架の拡大画像と番号に対応した形のタイトルリストが表示される（【図2】）。リストの一番右列には立正大学図書館 OPAC の各書誌詳細画面へのリンクを貼り、容易に書誌情報へアクセスできるようになっている（【図3】）。所蔵資料をより広く知ってもらえるよう、タイトルリストについては、バーチャルツアー上だけでなく、図書館ホームページ上にも公開した。

【図1】



【図2】



【図3】



■古書資料館が提供する各種情報源へのアクセスが可能

ツアー上には、上で述べた和装本アイコンの他にも複数種類のアイコンが表示される（【図 4】）。バーチャルツアーというひとつの入口から、各アイコンをクリックすると、参照ページや動画等、古書資料館が提供する各種の「情報源」にアクセスすることができるのである。

例えば、【図 5】をクリックすると、調べもの相談（レファレンスカウンター）の説明のほか、記載の URL から国立国会図書館レファレンス協同データベースのページにアクセスし、これまでの古書資料館でのレファレンス対応事例を即座に確認することができる。【図 6】をクリックすれば、web 展示のような形式で、古書資料館で所蔵する資料の一部を画像と解説と共に閲覧することができる。一部資料については、記載の URL から、ホームページ上で公開している精細画像にもアクセスすることができる。【図 7】のアイコンをクリックすると、古書の利用方法や取り扱い方等を紹介している自館作成動画の視聴が可能である。

【図 4】



【図 5】



【図 6】



【図 7】



■無料サービスを利用して自館で作成

バーチャルツアーは業者への依頼はせずに、360度カメラと無料サービスを利用して自館で作成した。最初は Google ツアークリエイターを使用して作成し、令和 3 年 4 月に公開した。令和 3 年 6 月末に Google ツアークリエイターのサービスが終了したため、フリーアプリの Theasys (<https://www.theasys.io/>) を使用して

再度構築し、令和3年7月にリニューアル公開した。ツアーの内容は Google ツアークリエイターで作成したものと大きく変更はないが、URL を掲載するだけでなく、ツアー上からそのままリンク先へ飛べるようになった点が改善点のひとつである。

6.2. 通信型の古書に親しむ講座を開催

平成27年、古書資料館の存在と所蔵資料の魅力を知ってもらうため、お昼休みの30分間で気軽に古書に親しむ「お昼休みの古書レッスン」（全2回×2コース）をはじめて開催した。学内者（学生・教職員）のみを対象とした講座だったが、ホームページに案内を掲載したところ、一般の方からも複数参加希望の問合せが寄せられ、「古書資料館を利用してみたい」「古書を利用してみたいが、そのきっかけが欲しい」「美術館や博物館に行った際に、古文書に書かれたくずし字を読めるようになりたい」といったニーズが想像以上に多くあることに気付かされた。

そこで、平成28年より、学内者のみならず、一般の方をも対象とした古書に親しむ対面・集合型の講座の実施を開始した。所蔵資料をピックアップして紹介する他、それら資料を使って変体仮名の読解に挑戦してもらう内容である。以降、令和2年2月まで毎年継続して実施してきたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和3年2月、はじめて通信型の講座を開催するに至った。

■なぜ通信型なのか

講座は平日に実施してきたが、「仕事があるので参加したくてもできない」等、社会人の方からの意見がかねてより複数寄せられていた。ウェビナー形式での実施も考えたが、アーカイブの提供でなければ社会人の方の時間の面での制約を解消できないこと、また過去には年配の受講生が比較的多かったことから、時間を選ばず、パソコンも使用しない、「通信型」の講座を実施することにした。

■通信講座の概要

古書資料館や所蔵資料の魅力を知り、コロナ禍でも古書に親しんでもらうことを目的に、令和3年2月、通信講座「平家物語で学ぶ変体仮名」を実施した。【図8】はそのときの案内チラシである。

受講料は無料で、募集人数は従来の対面・集合型の講座と同様、15名とし、定員を超えた場合は抽選とした。所蔵資料を使用しながら、変体仮名を読み解く面白さに触れてもらえるようなテキストを作成し、受講生へ送付した。受講生は期日までに2回の課題を郵送またはメールで提出する。課題は添削して返送し、すべての課題を提出した方には、修了証を発行した。

【図8】



7. 応募事例がもたらした主な成果・効果（a）、b）ともに）

※枠の大きさは適宜調整してください。

7. 1. バーチャルツアーについて

■ホームページへのアクセス数増加

古書資料館のみの独立したホームページはなく、バーチャルツアーとタイトルリストは、立正大学図書館ホームページの中の一部に設けられた、古書資料館紹介ページ上に掲載している。ホームページの構造上、利用者がアクセスしやすいページとは言い難く、昨年（令和2年）4月のページ閲覧数は31で、以降50にも満たない月が多い状況だった。しかしながら、令和3年4月にバーチャルツアーを公開したところ、その月の閲覧数は404と前年の約13倍の数となった。その後も、定期的にアクセスがあり、5月以降も平均200を超える継続した閲覧がある。

■所蔵資料への問い合わせの増加

ページへのアクセス数増加に比例して、所蔵資料への問合せも増加の傾向にある。昨年は休館の影響もあり、年間を通して所蔵資料についての問合せは1件のみであったが、バーチャルツアー公開後の5月以降、すでに5件を超える問合せがあった。来館が難しい状況でも、古書資料館の蔵書の概要が見えるようになったこと、また特に、バーチャルツアー上で来館時と同様にブラウジングができ、OPACの書誌情報へのアクセスがしやすくなったことが大きいと考えている。問合せの内容は、資料を実際に閲覧してみたいといったものや詳細な書誌情報の確認等で、バーチャルツアー上でのブラウジングが興味のあるタイトルに出会ったり、新たな発見が生まれるような機会となっていることを実感している。

7. 2. 通信型の古書に親しむ講座について

■全国から多数の応募

従来の対面・集合型の講座においても毎回定員を超える応募があったが、今回は定員15名のところ、全国から約60名の応募があった。時間と場所を選ばない通信という方法をとったことで、本学学生・大学院生・教員からの応募も増え、さらに近隣住民の方のみならず全国からの応募があったこと、業務で古書を扱う図書館員や社会人、他大学学生の応募が散見されたことがこれまでにない特徴だった。定員に対して多数の方に応募いただいたため、第1期、第2期と日程を2回に分けて実施し、今回は応募者全員に受講してもらった。通信型の講座を実施したことによって、これまで古書や講座に興味があっても参加できなかった方のニーズを汲み取ることができたのではないかと感じている。

■講座中、講座終了後の継続的なレファレンス相談

講座を通して、受講生からは、講座課題の提出時などにメールや書面で、「くずし字を読むために参考になる、わかりやすい辞書を教えてほしい」「平家物語の現

代語訳が載っている本が知りたい」等といった複数のレファレンス相談が寄せられた。これらの相談については、課題の添削時にあわせて回答を送付した。また、講座終了後も、「講座で読解した部分の続きについて、継続して読解に挑戦したいので資料を利用したい」「自分で勉強を続けるために必要な参考図書が知りたい」「初心者でも読みやすい古書のタイトルを教えてください」といった相談が続いている。図書館の規模が小さいため、古書資料館でのレファレンスは必然的に少人数体制となってしまうが、いつも同じ担当者らが対応してくれるという安心感も、継続的な学びや複数回のレファレンス利用に繋がる要因のひとつとなっていると考えている。

8. 今後の課題や展望（応募したレファレンスサービス事例を踏まえ、今後のレファレンスサービスに対する課題や展望を記入してください。） ※枠の大きさは適宜調整してください。

古書資料館では、毎年予算の範囲内で新規に古書を購入し、蔵書の補完と充実をはかっている。バーチャルツアーおよびタイトルリストは現在、令和3年4月の書架の状態がもとになっているため、定期的に書架情報やリストを更新し、新着資料も含めて所蔵資料を周知できる体制を整えていきたい。また、一部資料についてはOPACへの入力完了しておらず、現在入力作業中である。これら資料について、現在はタイトルリストのみに情報を掲載しているが、入力が進んだ際には、バーチャルツアー上にも画像とOPACへのリンクを公開したいと考えている。

バーチャルツアー上からもアクセスできる国立国会図書館のレファレンス協同データベースには、クイックレファレンスにあたる質問や回答も積極的に登録してきた。今後はそれらの中からアクセスが多かった事例や複数回受け付けた事例、古書のなかでも学生や一般の方にも親しみがもてる事例をまとめ、古書資料館の発行誌「立正大学古書資料館通信」（年2回発行）に掲載する等、レファレンスサービスの存在を一層PRしていきたい。

古書に親しむ通信講座は、令和3年度もコースと定員を増やして実施する予定である。応募が多かった場合は添削に要する時間や費用等の関係上、抽選となってしまうため、古書に関する講座を受講してみたいと興味を持ってくださったすべての方のニーズにこたえられるような運用を検討していきたい。今後も「持続する学び」を支援していけるような「情報源」の提供を模索していきたい。

（注）

- 1 本様式とは別に参考資料を添付することも認められますが、資料のサイズはA4サイズに統一してください。なお、本様式とあわせて全体で10ページ（10枚）以内に収めてください。
- 2 書類審査を通過した応募書類については、図書館総合展ホームページ等で公表させていただく場合がありますので、本様式の作成にあたっては個人情報の記載等について御留意ください。

応募様式

第7回図書館レファレンス大賞への応募事例

1. 事例のタイトル（応募名となります）とタイプ

タイトル（20字程度。副題（サブタイトル）を含めます。） 三角屋根の駅舎はどうして消えてしまったのか。
タイプ（あてはまるものを○で囲んでください。） a) 質問・回答の事例 b) 利用促進を図る取り組みの事例

2. 応募者 ※枠の大きさは適宜調整してください。

応募者名 （個人・団体など）	練馬区立練馬図書館 レファレンス担当	
代表者名	船津 まゆみ	
代表者の所属・職名 等	練馬区立練馬図書館 主任図書館専門員	
連絡先	担当者名	岩村 陽恵 オニール原田 芽 久保田 亜美
	〒所在地	〒176-0012 東京都練馬区豊玉北6丁目8番1号
	電話	03-3992-1580
	FAX	03-3993-1592
	e-mail	LIB2@city.nerima.tokyo.jp

（図書館の蔵書冊数について、令和3年3月末日の概数を記入してください。）

応募事例の 図書館名と蔵書冊数	図書館名： 練馬区立練馬図書館 あてはまる館種を○で囲んでください。 公立、学校、大学、専門、公益法人立、 その他（ ）	蔵書冊数： 約 15 万冊
--------------------	---	-----------------------------

3. 応募事例の実施時期

平成 令和	元年 7月～	平成 令和	年 7月 頃
----------	--------	----------	--------

4. 公表について

「1. タイトル (応募名)」および「2. 応募者 (連絡先を除く)」を図書館総合展のホームページ等で公表することに、

同意します 同意しません (あてはまるものを○で囲んでください。)

最終審査に進んだ場合また奨励賞を受賞した場合、「プレゼンテーション動画」「応募書類」を図書館総合展のホームページ等で公表することに、

同意します 同意しません (あてはまるものを○で囲んでください。)

5. a) 質問の詳細と背景／b) 取り組みの趣旨と目的 ※枠の大きさは適宜調整してください。

練馬区の大泉学園駅（旧東大泉駅）の旧駅舎は、もともと三角屋根だったが、いつからマンサード（ギャンブレル）屋根になったのか。いつ頃、どのような理由で改修されたのか知りたい。

6. a) 図書館からの回答内容／b) 図書館の取り組みの詳細

※枠の大きさは適宜調整してください。

【回答内容】

●旧大泉学園駅の屋根の改修に関する資料

・『練馬区史 現勢編』（練馬区独立三十周年記念）練馬区史編さん協議会／編集 東京都練馬区 1981

* p450「第二節 地区別町の変遷」に「大泉学園駅は東大泉駅として、大正13年（1924）11月に開駅、昭和8年3月1日に現駅名となった。」とある。

・『私たちの大泉周辺地域探検』 練馬区立大泉二中一年社会科 1983

* p14～「大泉の商店－まちのくらし－」で、中学生が大泉学園駅のまわりの商店を訪ね、話を聞いている（昭和58年5月15日）。その中で、ふとん店（かぶき綿）のおばさんの話として、「いつ頃だかわからないが駅が火事（ぼや）になった。ストーブが原因といわれるが、そのため屋根の形が開業当時と少しちがっている。」という記述あり。

その他、『練馬区史』全3巻（練馬区独立三十周年記念 1980～1982年刊）、『練馬区史 上・下』（練馬区独立十周年記念 1957年）、区内所蔵の各地域資料および西武鉄道の歴史を記載した資料を探索したが、上記資料以外に大泉学園駅の屋根の改修に関しての情報なし。

●写真で見る駅舎の変遷

・『目で見える練馬・板橋の100年』 林英夫／監修 郷土出版社 2004.12 ISBN:4-87663-724-5

*p15 大正14年撮影の東大泉駅の写真あり。三角屋根の駅舎が写っている。

・『私たちの練馬 1981』 練馬区中学校教育研究会社会科部 練馬区教育委員会 1981

*p35 「昭和22年の大泉学園駅」とキャプションのついた写真があり、そこにはマンサード（ギャンブレル）屋根が写っている。しかし近年の資料には、同じ写真が「昭和31年撮影」として掲載されており、後年調査が進み、撮影年代が修正されたと考えられる。また、「開設当時の大泉学園駅」として、大正14年撮影の東大泉駅の駅舎の写真も掲載されている。

・『写真アルバム練馬区の昭和』 いき出版 2015.12 ISBN:978-4-904614-73-0

*p76 『私たちの練馬 1981』掲載と同じ写真が「昭和31年頃」と掲載。キャプション中に「当初は三角屋根の駅舎であったが、その後写真のマンサード屋根になった。」と書かれているが、改修の理由や年代についての記載なし。

・練馬わがまち資料館 <https://www.nerima-archives.jp/photo/>

*データベース検索で「大泉学園駅」をキーワードに検索すると、上記と同じ写真がヒット。1956年撮影と記載（整理番号25-0079）

・『知れば知るほど面白い西武鉄道』 辻良樹／編著 洋泉社 2016.10 ISBN:978-4-8003-0860-3

*p66 「沿線に展開した学園都市」の章に、昭和40年代の大泉学園駅駅舎の写真と共に「現在は橋上駅舎だが、かつてはギャンブレル屋根の駅舎で、街のシンボリック的存在だった。この旧駅舎は、正面の切妻が特徴で、寄棟造りのマンサード屋根ではない」との記載があるが、いつ改修されたか等の記載なし。

・『西武鉄道昭和の記憶 園田正雄／編 彩流社 2011.12 686.213 978-4-7791-1711-4

*p19 昭和37年2月25日撮影の大泉学園の駅舎の写真あり。マンサード（ギャンブレル）屋根。

●その他、当時の東大泉駅、大泉学園駅の様子が見える関連資料

・『練馬区の歴史』 練馬郷土史研究会 名著出版 1977

*p208～「大泉学園周辺」の章に、大泉学園駅（東大泉駅）建設についての逸話あり。駅の開設祝賀会に水谷八重子が来たこと、昭和12年に師範学校（今の学芸大学）の誘致が決まったが、同年に新興キネマ東京撮影所ができ、学校側が「軽

薄華美の服装をした俳優たち」と駅を共有することを渋ったため、南口に改札口を設けたこと等。

・『ふるさと練馬区秘話』 鳥居 義太郎 練馬経済新聞社 1986.1

*p145「視察の大臣を偽る 一日で大泉駅新設」当時大泉の地に目を付けていた「箱根土地」が、土地を売り出すには駅が必要として鉄道大臣に陳情を開始、「畑の中に駅など必要ない」と言われたため、「実は駅はできています」と偽り、大臣が訪れる2日前に、一日で大泉駅舎を作ってしまった、との逸話が書かれている。

・『大泉今昔物語』 加藤 惣一郎 1976

*p108「箱根土地会社の開発」 箱根土地の康一郎による土地買収の様子について、大正14年春に根津公園、鉄舟神社予定地で行なわれた祝賀会の様子、その後の住宅地建設や大学誘致計画頓挫、商店街建設等。

*p130 「新興キネマ大泉師範、タムラ製作所」 昭和12年のキネマと師範学校誘致問題について、当時の地元関係者や学校用地にかかった費用等も含め詳しく書かれている。

*p170 昭和35～50年までの大泉学園駅の乗降客数、昭和40～50年代の駅員の勤務と一日の乗客数（時間帯ごと）等のデータあり。

●マンサード（ギャンブレル）屋根について

・『建築デザイン用語辞典』 土肥博至／監修 井上書院 2009.12 ISBN:978-4-7530-0034-0

*p356「マンサード屋根」(mansard roof, gambrel roof) 屋根の途中で傾斜角度が変わるもので、上部は勾配が緩く、下部は急勾配になっている屋根。

*p373 各種屋根のイラストの中に「マンサード屋根」あり。

・『建築大辞典』 彰国社／編 彰国社 1993.6 ISBN:4-395-10015-5

*p1594 「マンサード屋根」(〈英〉mansard roof, 〈米〉gambrel roof) 下部が急勾配なのに対して上部の勾配は緩い屋根。「腰折れ屋根」「フランス屋根」ともいう(イラストあり)。

【参考資料一覧】

- (1) 私たちの大泉周辺地域探検 練馬区立大泉二中一年社会科 1983
- (2) ふるさと練馬区秘話 鳥居 義太郎 練馬経済新聞社 1986.1
- (3) 大泉今昔物語 加藤 惣一郎 1976
- (4) 私たちの練馬 1981 練馬区中学校教育研究会社会科部 練馬区教育委員会 1981
- (5) 練馬区史 現勢編 練馬区史編さん協議会／編集 東京都練馬区 1981 213.61
- (6) 知れば知るほど面白い西武鉄道 辻良樹／編著 洋泉社 2016.10 686.213 978-4-8003-0860-3

(7) 西武鉄道昭和の記憶 園田正雄／編 彩流社 2011.12 686.213 978-4-7791-1711-4

(8) 目で見る練馬・板橋の100年 林英夫／監修 郷土出版社 2004.12 213.6106 4-87663-724-5

(9) 写真アルバム練馬区の昭和 いき出版 2015.12 978-4-904614-73-0

(10) 練馬区の歴史 練馬郷土史研究会 名著出版 1977 213.6

(11) 建築デザイン用語辞典 土肥博至／監修 井上書院 2009.12 520.33 978-4-7530-0034-0

(12) 建築大辞典 彰国社／編 彰国社 1993.6 520.33 4-395-10015-5

(13) 「赤い三角屋根」誕生 国立大学町開拓の景色 くにとち郷土文化館 くにとち郷土文化館 2020.4

【参考 URL】

(1) 練馬区歴史資料デジタルアーカイブ <https://j-dac.jp/nerimakurekishi/>

(2) 練馬わがまち資料館 <https://www.nerima-archives.jp/photo/>

【図書館の取り組みの詳細・回答プロセス】

1、練馬区立図書館所蔵の地域資料を探索。

・大泉地域の資料および練馬区全体の歴史に関わる資料を区内各図書館より取り寄せ、内容を確認。

・練馬図書館所蔵の地域資料の書架をブラウジングし、資料の内容を確認。

→『私たちの大泉周辺地域探検』の中に「ストーブが原因で駅がボヤになった」旨の記述が見つかる。地域の方への聞き書きだったため、他に裏付ける資料がないか探索したが、これ以上は見つけられなかった。

2、駅舎の歴史写真をもとに、時期を特定しようと試みる。

・練馬区が所蔵している昔の写真や、西武鉄道関連の資料の中にある写真を確認。

→東大泉駅の三角屋根の写真、マンサード屋根の大泉学園駅駅舎の写真は見つかったが、改修の時期や理由について触れられている資料なし。

3、「昭和22年の大泉学園駅」とキャプションがついているマンサード屋根の写真が見つかったので、戦災による可能性も考え、もう一度区史の戦災被害についての記載を調べたが、大泉学園周辺の被害状況に駅は含まれていなかった。

→その後、同じ写真の撮影年代が「昭和30年代」と後年修正されていることが判明。

4、区報縮刷版、新聞データベースを確認。該当する内容は見つけられなかった。

5、上記の探索結果と、探索の過程で見つかった、東大泉駅および大泉学園駅にまつわるエピソード、当時の空気が伝わる資料を合わせて回答とした。

※練馬区石神井公園ふるさと文化館や西武鉄道への照会は、質問者本人がされるとのことで、行わなかった。

【追記】

その後、見つかった情報を掲載した『「赤い三角屋根」誕生 国立大学町開拓の景色』（くにたち郷土文化館 2020.4）が完成。

※JR国立駅旧駅舎の復元完成を記念して開催された展覧会の図録。

7. 応募事例がもたらした主な成果・効果（a）、b）ともに）

※枠の大きさは適宜調整してください。

地域の歴史の中で駅舎の歴史、建築様式についてのレファレンスを受けたのは初めてであり、レファレンス担当も興味を持って、日頃から収集に努めていた地域資料を中心に調査を進めることができた。

区内の中学生が作成した町の人への聞き書きという、練馬区でしか所蔵していない資料に、重要な情報が掲載されており、練馬区立図書館で探索を行った甲斐があった。

くにたち郷土文化館発行『「赤い三角屋根」誕生 国立大学町開拓の景色』作成に少し貢献することができた。JR中央線沿線の国立と、西武鉄道沿線の練馬とのつながりを知ることができた。

実際にページを開いてみないと発見できない情報があることをあらためて実感した。

8. 今後の課題や展望（応募したレファレンスサービス事例を踏まえ、今後のレファレンスサービスに対する課題や展望を記入してください。） ※枠の大きさは適宜調整してください。

このレファレンスでは中学生が作成した聞き書きが回答の決め手となった。歴史の中に埋もれてしまいそうな地域の人々の記憶の記録の重要性を改めて感じた事例だった。以前、練馬図書館では練馬区の図書館の歴史を、元職員と地域住民のインタビューを中心にまとめた『練馬区立図書館 黎明期の歩み』を発行した。今後とも練馬区地域の資料の収集及び、地域資料の作成を積極的に行っていきたい。

（注）

- 1 本様式とは別に参考資料を添付することも認められますが、資料のサイズはA4サイズに統一してください。なお、本様式とあわせて全体で10ページ（10枚）以内に収めてください。
- 2 書類審査を通過した応募書類については、図書館総合展ホームページ等で公表させていただく場

合がありますので、本様式の作成にあたっては個人情報の記載等について御留意ください。

4. 公表について

「1. タイトル (応募名)」および「2. 応募者 (連絡先を除く)」を図書館総合展のホームページ等で公表することに、

同意します 同意しません (あてはまるものを○で囲んでください。)

最終審査に進んだ場合また奨励賞を受賞した場合、「プレゼンテーション動画」「応募書類」を図書館総合展のホームページ等で公表することに、

同意します 同意しません (あてはまるものを○で囲んでください。)

5. a) 質問の詳細と背景／b) 取り組みの趣旨と目的 ※枠の大きさは適宜調整してください。

図書館サービスの認知をあげる。

レファレンス業務スキルのノウハウの蓄積と向上を進めることで、より高い利用品質のレファレンスを実現する。

6. a) 図書館からの回答内容／b) 図書館の取り組みの詳細

※枠の大きさは適宜調整してください。

レファレンスのヒアリングを中心としたロールプレイング研修R1GP（アールワングランプリ）を開発し、実施している。観察者を取り入れた経験学習モデルによって、実現できていることの言語化とフィードバックを行っている。形式化されたノウハウをチェックシートにし、スキルの可視化を進めている。

(詳細は別紙参照)

7. 応募事例がもたらした主な成果・効果 (a), b)ともに)

※枠の大きさは適宜調整してください。

レファレンススキルの可視化。

他者のレファレンスを見て学ぶ。

知的好奇心を充足するレファレンスで、学習意欲の向上。

職員も外部参加者も、知的好奇心が相互交換されるヒアリングプロセスとレファレンス報告を受け、レファレンスへの関心が高まっている。

(可視化、学習コンテンツとしての効果は別紙を参照)

8. 今後の課題や展望 (応募したレファレンスサービス事例を踏まえ、今後のレファレンスサービスに対する課題や展望を記入してください。) ※枠の大きさは適宜調整してください。

オンラインでの円滑な開催が実現できたので、図書館対抗戦を実施し、他の職員とのスキル向上を進める。

将来的には、他地域とのトーナメント戦を開催し、開催内容を一般公開することで、レファレンスの魅了を広げていきたい。

(詳細は別紙参照)

(注)

- 1 本様式とは別に参考資料を添付することも認められますが、資料のサイズはA4サイズに統一してください。なお、本様式とあわせて全体で10ページ（10枚）以内に収めてください。
- 2 書類審査を通過した応募書類については、図書館総合展ホームページ等で公表させていただく場合がありますので、本様式の作成にあたっては個人情報の記載等について御留意ください。

○企画の背景

- ・NPO 法人 Code for OSAKA は、地域活動にテクノロジーを用いて活性を促すシビックテック団体で、ICT だけではなく、アイデアソンやイベントの企画運営を行っています。
- ・コロナ禍において、様々な制約で利用者減少になった大阪市立図書館有志は、図書館の魅力をどのように届けていくかを考え、地域活動の情報発信で交流のあった Code for OSAKA と対策を検討しました。
- ・図書館の魅力発信として検討を始めましたが、図書館が継続して活動できるためには、図書館司書が楽しめるテーマを中心においた方がよいと、レファレンスを取り扱うことにしました。

○R1GPの成り立ち

- ・検索といえばGoogleやYahooなどの検索エンジンが一般に思いつくので、検索エンジンより図書館司書によるレファレンスの方が高い満足度になるイベントを試しました。
- ・結果は検索エンジンの満足度が高いものとなりました。原因は、レファレンスしにくい運営（オンライン、20分の制約時間で素早い回答が求められる）にありましたが、レファレンス業務のスキルアップ、教育効果としての期待が感じられました。
- ・そこで、経験学習モデルやスキル可視化を組み入れた研修としてR1GPを再設計し、開催しています。

○R1GPの構成

- ・相談者を立て、実際にヒアリングを実施しながらレファレンスを実施します。
- ・ヒアリングは5分ほど。レファレンスは20～40分ほどの制限時間で行います。
- ・1名でレファレンスを行う個人戦、2～3名で行うチーム戦、両方開催しています。
- ・それぞれ異なるテーマをレファレンスするケース、同じテーマをそれぞれがレファレンスするケース、両方開催しています。
- ・相談者は、対面での相談、オンラインでの相談、両方開催しています。
- ・観戦者は、観察しながら付箋に気付きを記入し、チェックシートで観察します。
- ・レファレンス終了後、観戦者の気付きをフィードバックします。

○R1GPの具体的な流れ

R1GP vol.5の流れ		
概要説明・流れ説明	18:30-18:45	この時間です
シチュエーション説明	18:45-18:50	相談者からのレファレンス依頼、代表質問をしてもらいます
レファレンスタイム	18:50-19:30	端末も1つ、質問者も1人なので、追加質問は早いモノ願！
発表	19:30-19:50	1人2分目安で、ええ具合に
振り返り	19:50-20:15	観戦者からチェックシートや付箋・メモで真新しい発見を
全体の感想	20:15-20:30	今後につながる感想を！

オンライン、個人戦、同じテーマをそれぞれレファレンスする第5回目のタイムチャートは左記の通りです。

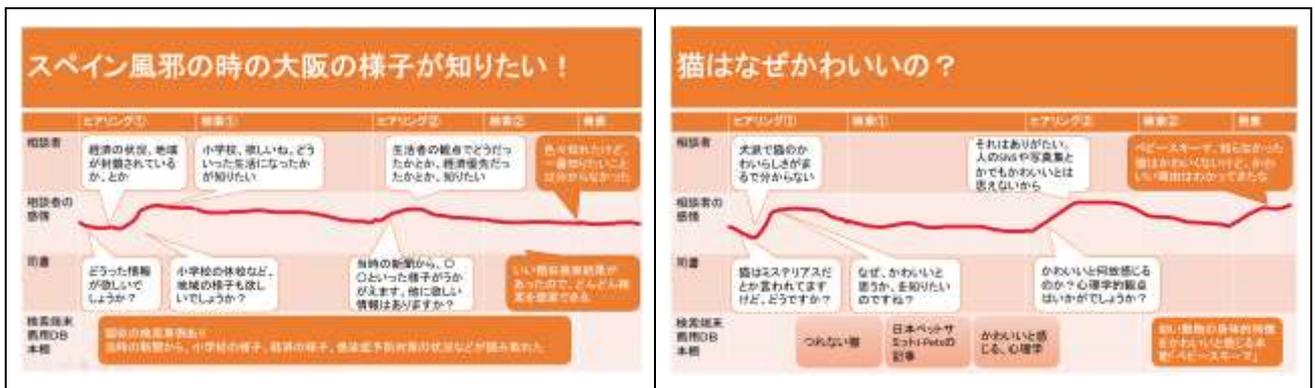
○これまでの取り組み

- ・緊急事態宣言などで、活動制約がある中、毎回開催に工夫を重ねながら実施しています。
- ・外部での登壇を行うことで、活動内容の整理と、外部意見の収集を行ってきています。

開催日	内容	参加人数	概要
2020/9/25	R 1 G P 1 回目	質問者 1 名、相談者 4 名、観覧者 5 名	オンラインで、検索 v s 司書リファレンスで開催
2020/12/16	R 1 G P 2 回目	質問者 1 名、相談者 6 名、観覧者 5 名	教育・スキル可視化にシフトし、対面での開催
2021/1/29	事例発表	オンライン 100 名弱の参加	「ビジョンと UX デザイン～HCD 事例発表会 + F X フォーラム～」にて取り組み紹介
2021/3/12	R 1 G P 3 回目	質問者 1 名、相談者 6 名、観覧者 5 名	対面開催、チーム力を発掘するため 3 名ほどのチームで実施
2021/8/2	R 1 G P 4 回目	質問者 1 名、相談者 6 名、観覧者 8 名	運営になれてきたのでオンラインで開催
2021/8/16	勉強会	17 名	これまでの活動で見えてきたことを図書館関係者、学校司書にも参加頂き発表
2021/8/23	R 1 G P 5 回目	質問者 1 名、相談者 6 名、観覧者 14 名	それぞれのやり方を強調する同一テーマでのレファレンスをオンラインで開催
適宜	事例発表	毎回オンライン 20 名程度の参加	Code for OSAKA 月次定例会で、開催状況や見えてきた成果を発表し、参加者より意見を収集

○R 1 G Pでの可視化①（相談者の気持ち）

- ・レファレンスは相談者に寄り添いながら実施する、コンサルティングの要素があります。
- ・R 1 G Pのヒアリングや報告のプロセスで、どう相談者の気持ちが上下するかを表現することで、どういうやりとりが相談者の寄り添えているのかを可視化しています。

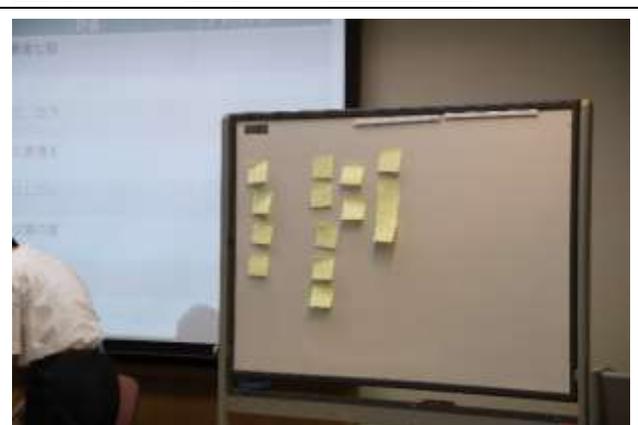




(※ 可視化には、サービスデザイン・UXの分野で活用される「カスタマージャーニーマップ」を活用)

OR1GPでの可視化② (レファレンスのスキル)

- ・レファレンスの様子を観戦者は観察し、気づきを付箋に記載していきます。



- ・付箋に書き出す、文章化のステップを含むことが、スキルの可視化につながります。

レファレンス終了後、大量の付箋をグルーピングしながら、どういう態度やスキルがレファレンスの質を向上させているかを全員で学び合います。

自分のレファレンスを客観視される経験そのものも司書の楽しさにつながっています。

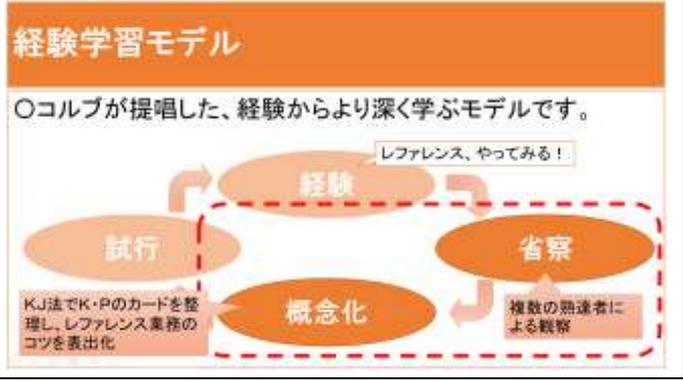
KPTの利用

K(Keep)、P(Problem)、T(Try)で書き出していく手法



観戦者に「いっぱい褒めてください。Pが1つあるならKは10ぐらいを目標に。そのためにはちゃんと細かいことを観てください」と依頼。継続参加し、積極的に参加・学習するためには、大量のKeepが有益。

複数の観察者からの気づきを文章化することで、経験学習モデルの省察と概念化を実施することになり、経験から深く学ぶプロセスを実現しています。



- ・4回開催したところで、多く出てくるKeepの要素をまとめ、チェックシートとして作成しました。
- ・利用者との接触は接遇スキルに、相談内容の深掘りはコンサルスキルと同スキルが必要であることが明らかになり、必要なスキル要素が具体化できています。

分類	観点
身だしなみ	100m先から分かるほど、ムダに華やかな服装である 相手に威圧感与える髪型にしている
表情	キラキラキラキラ光り物を付けすぎて、カラスに狙われそう ゴルゴか覆面レスラーぐらいに相手に表情を読ませない 両頬頬に、不機嫌や不満をあらわにしている
声	エアコンの音に負けている、もしくは隣の家にまで響き渡る 20年染の親友以上に話しげ、もしくは大統領と話すぐらいにガチガチ
感情	やらせれ感パツパツ、わくわく度皆無
歩容	倦怠期のように歩容しない、初めてのパートナーの顔に対するようにごこちない
視線	悪いことした時の親や上司を相手にするように視線を合わせない、ネット上から好きなタレント見るぐらいにガン見
対話	相手の話が退屈だから止めちゃう 分かってることを確認する時間はムダ 聞きたいこと、相手が喋る暇を与えずにガンガン聞いちゃう さっさと情報収集！相手の話の流れが不規則になったら、どんどん聞いちゃう！ 自分のペースで、リズムカルに！ どう受け止めたか、それは相手のこと聞かされたこと伝えるのが大事

分類	観点
何のために？	なぜ知りたくなったか？ 知った情報をどう使うか？ 目的を確認しよう
どのような？	統計情報が欲しいのか、最近のネット・雑誌などでのトレンドが知りたいのか、論文や学術書籍での証明が知りたいのか、地域・国内・海外、いつごろ 目的に沿った情報の属性を確認しよう
いつまでに？	すぐ必要なのか、ゆっくり必要なのか、 一次回答はいつまでか 期日確認しよう
誰のための？	ご自身が知りたいのか？上司や顧客が欲しいのか？配偶者や恋人のためののか？ ご自身でない場合、必要とする人の情報から調べやすいかも変わってくる
類似検索	レファレンス過去事例を検索しているか？ 同じキーワード、類似キーワード、反対語、レファレンス目的の言葉
図書・資料	説明する時、情報ソースの図書・資料がどのようなものか（タイトル・ジャンル・著者・発表年など）、どのあたりで説明されているか（目次やページ数など）、説明しているか？
調査観点	情報収集に向かう時、どういう観点で調べるか伝えているか？ 相手の様子を受けて、その観点以外への興味を引き出し、確認しているか？
満足度	相手が調査観点や図書情報に満足しているか、表情や声質、態度から読み取ろうとしているか？ レファレンス結果を受けての応対で、次も調べて欲しいか確認しているか？

楽しく継続していくR1GPはセルフチェックを作っています。

観戦者が第三者チェックした内容やアドバイスを、レファレンス担当へフィードバックすることで、コミュニケーションを促進し、チームの質を高めて実務での高い協力関係を構築することを狙っています。

○R1GPが取り扱う相談テーマ

・R1GPは相談者に寄り添うスキルを磨くため、正しい情報よりも相談者と一緒に探るテーマを設定します。

R1GPが取り扱いたいレファレンスは 意地悪で難易度が高く、そして面白い	
① 素早く、必要な情報を収集する	← Googleが得意
② 探しにくい情報を、しっかり正しく探す	← レファレンスが得意
③ その人が欲しい知識を探し出す	
人が掘り下げる＝人でしかできない	

これまでのテーマ
1 ス페인風邪の時の大阪の様子が知りたい!
2 猫はなぜかわいいの?
3 リモートワークの歴史を自慢したい!
4 コロナは新聞を信用しない国がかかりやすいの?
5 痩せる気がない人を痩せさせるには?
6 浮気はどこから?
7 乗り換え案内みても遅刻してしまうけど、どうしよう?
8 感謝、恥ずかしさをなくすためには?
9 傘はなぜ進化しないのか?
10 人間力ってどういうもの?
11 珈琲党です。紅茶派より得意だと思うけど、どう?

・イベント観戦者の感想、意見交換から、レファレンスの3つのパターンのうち、②について既存のレファレンス勉強会で鍛えていくことができること、③について、ヒアリング能力を鍛える観点（接遇スキル、相談者自身も気付いていないニーズを引き出すスキル）がこれまで不足していたことが明らかになり、R1GPが既存教育を補完する研修コンテンツとなりえることが分かってきました。

○参加者の声

- ・2回目、4回目は参加者アンケートをとりました。高い満足度を得ています。
- ・また、参加者の声を聞きながら、毎回開催内容を工夫・挑戦しています。

参加者の声	
2回目	満足度 4.4(5段階) 継続してやって欲しい ○:9名 継続して参加したい ○:8名、△:1名 ほかの人に参加をすすめてみたい ○:9名
4回目	満足度 4.2(5段階) 継続してやって欲しい ○:10名 継続して参加したい ○:9名、△:1名(時間等で都合がつけば参加したい) ほかの人に参加をすすめてみたい ○:10名
	2回目 n=9 レファレンス6名+外野席3名 4回目 n=10 レファレンス4名+外野席6名

参加者の声	
2回目	チーム制もいい、外野席に聞くという手段がなかなか使えなかった。 受け答えまきちゃんと見てもらえる機会が少ないので、職員用の研修でもやって欲しい。 もう少し手順がスムーズだといい、経過票を使って欲しい。 最後の評価が有効。もう少しじっくり整理したものを見てみたい。 タイムアタックで商品なども面白い。採用試験などで使うのもいい。 想像以上にそれぞれの個性が現れる。色々な方のレファレンスが聞いてみたくなった。 今後、オンライン200mでのレファレンスの可能性が見えた。
4回目	20分は調査時間が短すぎたように思う。 同じ質問を様々な人で調査するのは一度やってみたい。 先輩方が回答の道筋をどう作ってるのが近くで見られてとても勉強になった。

- ・5回目開催には、姫路市の小学校の学校図書館司書の方がオンライン観戦してくれました。(4名)
- ・皆さんからの感想から、レファレンス担当者が楽しんで実施できていること、学びが多様で深いことが分かり、楽しくレファレンススキルを向上するというR1GPの魅力が実証されています。

R1GP Vol.5 初観戦者の声 1/2	R1GP Vol.5 初観戦者の声 2/2
<p>・学校司書さんが観戦してくれました</p> <p>短時間で回答できる、かつ、的外れでもなく、質問者の興味を喚起するような回答をされてたように思います。</p> <p>資料知識をベースに「聞く力」「聞き取る力(理解力?)」がどれだけあるかでレファレンスの質が変わってくるのだなと思いました。</p> <p>「好奇心」、これが司書に一番大切なもの、共感します。</p> <p>とにかく楽しかったです。良い時間でした。ありがとうございます。</p> <p>司会者が促してくれるから、発表者も、やり甲斐があるだろうなと思ったわ。</p> <p>memだと遠方でも参加出来て私は良かったと思う。</p> <p>司書さんがおっしゃってたように、業務では正しい答えや一般的な本を勧めるのだけれど、司書ばかりの経験だからこそ面白いレファレンス対応が出来たのだと思う。それが良かった。</p> <p>発表もオーソドックスなものよ、「こんな見方があるのか」と思うものの方があって良かった。</p>	<p>・学校司書さんが観戦してくれました</p> <p>お楽しみボックスまでフォロー開けていくようなワクワクしたレファレンスでした。</p> <p>テーマから観ていくときの居いやプロセスも分かって、それぞれのレファレンスの特徴がよく分かりました。</p> <p>興味なかった「恥ずかしい」に魅了され、読んでみたくなるような論文や本もありました。</p> <p>みなさんが楽しく取り組んでいるようすが心地よく私も頑張ろうと思いました。</p> <p>利用者の方と対話することで、相手の求めることを引き出し、さらには、新たな「気づき」に繋げ、「知る喜び、思考する楽しさ」を利用者の方と同じ目標で共有してみたい、と感じました。</p> <p>その為には、自身の好奇心を磨き続ける事がとても大切だと、改めて、つくづく、思いました。</p> <p>充実した時間をありがとうございました。</p>

○R1GPの今後

- ・継続開催し、レファレンス業務担当者の育成、ノウハウの可視化と蓄積を行います。
- ・オンライン開催のノウハウがたまってきたので(4回目、5回目開催はzoomを用いたオンライン開催)、他の図書館との対抗戦により「他図書館での暗黙知を学ぶ」「より多様な観点で学ぶ」「司書の交流を行う」を実現します。
- ・トーナメント戦を開催し、より大きな学びを目指します。
- ・オンライン開催／対抗戦／トーナメント戦を動画コンテンツにし、レファレンスの魅力の広報を進めます。

応募様式

第7回図書館レファレンス大賞への応募事例

1. 事例のタイトル（応募名となります）とタイプ

タイトル（20字程度。副題（サブタイトル）を含めます。） 「ミッション！作家 島尾敏雄の足跡を探せ！」
タイプ（あてはまるものを○で囲んでください。） a) 質問・回答の事例 b) 利用促進を図る取り組みの事例

2. 応募者 ※枠の大きさは適宜調整してください。

応募者名（個人・団体等）	指宿市立指宿図書館	
代表者名	下吹越 かおる	
代表者の所属・職名等	館長	
連絡先	担当者名	下吹越 かおる
	〒所在地	〒891-0403 鹿児島県指宿市十二町 2190
	電話	0993-23-2827
	F A X	0993-23-2841
	e-mail	soramamenokai@wing.ocn.ne.jp

（図書館の蔵書冊数について、令和3年3月末日の概数を記入してください。）

応募事例の 図書館名と蔵書冊数	図書館名：指宿市立指宿図書館 あてはまる館種を○で囲んでください。 公立、学校、大学、専門、公益法人立、 その他（ ）	蔵書冊数： 約 9万冊
--------------------	---	---------------------------

3. 応募事例の実施時期

令和 2年 9月 ~ 令和 3年 8月 頃
--

4. 公表について

「1. タイトル（応募名）」および「2. 応募者（連絡先を除く）」を図書館総合展のホームページ等で公表することに、 <input checked="" type="radio"/> 同意します <input type="radio"/> 同意しません （あてはまるものを○で囲んでください。）
最終審査に進んだ場合また奨励賞を受賞した場合、「プレゼンテーション動画」「応募書類」を図書館総合展のホームページ等で公表することに、 <input checked="" type="radio"/> 同意します <input type="radio"/> 同意しません （あてはまるものを○で囲んでください。）

a) 質問の詳細と背景

令和2年9月1日（メールにて転送）

指宿市職員より、「宮島さんから市にレファレンスメールが来ているから図書館で対応して欲しい」との連絡を受ける。内容は以下。

『海軍兵と戦争』の執筆に際し参考にした島尾敏雄・吉田満 『特攻体験と戦後』（中公文庫）から下記2件が判明した。

- ① 昭和52年6月6日当時、島尾敏雄は指宿市二月田に住んでいた。
その場所については、どこだったのか？
- ② 島尾日記から、「昭和52年～昭和54年9月、島尾一家は、指宿市西方1408番地（二月田）に住んでいたことがわかった。昭和52年6月6日「文藝春秋」の企画で、島尾は『戦艦大和ノ最期』等で知られる吉田満と指宿市の或る温泉旅館の一室で対談をした。」それが、どこの旅館だったのか知りたい。さらには、その他関連して何か情報は残っていないか？当時を知る語れる人はおられないか？など知りたい。

令和2年9月3日（来館）

レファレンサーの宮島氏が図書館を訪ねて来られた。

依頼は下記のとおり。

- ・「島尾敏雄 全集 15巻」の記載を見たい
- ・大吉さんに会って、島尾や妻、娘との交流を詳しく聞きたい
- ・島尾の住居跡を訪ねてみたい、当時のことを知る人がいたら紹介して欲しい

令和2年11月24日（来館）

- ① 島尾の「出孤島記」に、「1951年（昭和26年）34才、7月～8月、ミホ・長男伸三と共に鹿児島県の指宿温泉に病氣療養のため滞在していた」と記載があった。このことがのちの指宿への転居とつながっていくのでは、と思う。この時の宿がどこか知りたい。

⇒ 旅館名は、図書館ではヒットせず。

令和3年1月15日（金）

秀水園（旅館）の社長、湯通堂さんを紹介する。宮島さんが「手紙を湯通堂さんにお出ししたい」とのことで、図書館からも一報を入れ支援させていただいた。

令和3年1月16日（土）

秀水園（旅館）からは情報を得られず。宮島さんが、島尾敏雄のご子息、伸三さんに連絡を取る。

宮島さんご自身が「島尾敏雄日記～『死の棘』までの日々」（新潮社）に掲載があることを見つけられた。そこで対談会場が「秀水園」と判明。

また鹿児島近代文学館の学芸員が非公開の島尾日記を調査し、以下のことを宮島さんに伝え、図書館にもその情報をいただく。

「6. 6. (月) くもり 4時半～10時 秀水園で文芸春秋のため対談。吉田満氏と。特攻体験と戦後というような事。文春の編集者中井勝(稔栄さんの夫)ついてくる。稔栄さんのミホとマヤへのみやげ」と記載あり。島尾日記には、1977年(昭和52年6月6日)と記載あり

- ②「梅崎全集 第一巻」(沖積舎版)の本田秋五の解説に「20年のはじめに最初の部隊として指宿の航空隊の通信科に転勤」や「私は応招以来、佐鎮の各海兵団や佐世保通信隊や指宿航空隊で、兵隊として過ごしてきた」との記載を見つけた。かごしま近代文学館特別企画展にて「29歳で海軍に召集され、暗号特技兵として終戦まで指宿、坊津、桜島などの鹿児島陸上基地すごしました」との記載あった。また、1944年(昭和19年)29歳、12月、指宿派遣隊移る、や、1945年(昭和20年)30歳、3月から4月にかけて佐世保海兵団で、下士官候補者教育を受ける。との記載あった。
- 梅崎春生 全集 第1巻 (沖積舎版) P427に「20年のはじめに最初の実施部隊として指宿の航空隊の通信科に転勤し」と記載あった。
- このことから、図書館にも「文学碑建立と指宿文学散歩提言に力を貸して欲しい。」とのこと。

b) 取り組みの趣旨と目的

「2年半の指宿在住は県本土では最長だが、足跡は残っていないし、市民にも意外と知られていない。『二月田をはじめ指宿での暮らしはどんなものだったのか』『対談をした或る温泉旅館とは』『病気療養のため滞在した温泉宿とは』これまで指宿のまちづくりに携わってきた誼もあり、これは調べてみる価値があると感じた。」また調べたことの記録として「文学碑建立」や「指宿文学散歩」等のまちおこし案として提言活用し、指宿のにぎわい作りにも寄与できるかもしれない。

6. a) 図書館からの回答内容／b) 図書館の取り組みの詳細

※枠の大きさは適宜調整してください。

a) 図書館からの回答内容

令和2年11月10日 メールにて回答

- ① 「島尾敏雄は指宿市二月田に住んでいた」については
「島尾敏雄 全集 15巻」(晶文社・1982年9月25日発行)の、P370に指宿市西方1408番地と記載あり。他にも場所を裏付ける情報がP252、P264、P418に記載あり。
- ② 指宿在住時に島尾と交流のあった人の紹介(大吉さん、木佐貫さん、鈴木さん)
- ③ 対談場所について、秀水園社長に電話確認するもご存じではなく、「調べてから確認する」とのこと。その後、「調べたが、わからなかった。記録もなかった」との回答をお伝えした。

令和2年11月20日（来館）

- ・梅崎春生の指宿海軍航空基地をモデルした「桜島・日の果て 下巻」（埼玉福祉会）
- ・昭和4年8月1日に与謝野寛・晶子夫妻が指宿に旅した写真と短歌などの本「霧島の歌」（改造社）P77～92を紹介する。
- ・1926年（大正15）、海音寺潮五郎氏が鹿児島県立指宿中学校に国漢教師として赴任していることや、斎藤茂吉や、菊池幽芳などの著名な文化人が指宿についての句を多く残していることなどをお伝えする。

<人物に当たる その1>

元指宿図書館司書の大吉道子氏（91歳）と宮島さんとの対談の場づくり

直接、本人から詳細を聞いてもらった。

令和2年11月20日（金）

大吉さんと宮島さんの意向もあり、図書館側も同行し、大吉さんのご自宅に伺い、宮島さんとの対談の場をつくる。

大吉さん談話：「文芸いぶすきにもサポートして下さると言っていたものの恐縮して声をかけられずにいたが、一度だけ、『文集いぶすき投稿者の集い』を開催し（昭和51年、10月25日）、そこで基調講演をしてもらった事があった」

<人物にあたる その2>

令和2年11月23日（月）

指宿市文化協会元会長の木佐貫熙氏に電話をして当時のことを聞いてみると、奥様が出られて以下のことを教えてくれた。

- ・散歩の途中で会ったりしていた。大島紬の着物をキリッと着られ、素敵な奥様ぶりで手作りの佃煮とかもらったこともあった。
- ・「遊びにいらしてね」、と言われたのに遠慮して行かなかった。

木佐貫熙氏からは、

「二月田駅前の国道を一人で駅前を歩いていた女の子を自宅まで送り届けたら、島尾敏雄さん本人が出てきて驚いた。お礼にとサイン付き全集をもらったことは印象深い。その本はまだ持っています。」

後日、木佐貫氏に確認のうえ、宮島さんから電話インタビューをした、とのこと。

<人物にあたる その3>

鳥越屋 鈴木まゆみさん

（調べていく中での再レファレンス）

島尾日記の中に、昭和26年7月31日生駒屋旅館の記載出あり。

「昭和26年7～8月、島尾は指宿温泉に病氣療養のためミホ・長男伸三と滞在していた。」

その事についてわかる資料はないか。

⇒ その時には参考になる資料は散見されなかった。

後日、2月2日（火）

空調工事に伴い休館で閉架書庫の整理をしていた折、献本でいただいていた本の中に未登録の観光温泉郷「指宿町案内地図」/昭和26年12月15日・指宿タイムズ社パンフレットを発見。その資料に「御旅館 生駒屋」と記載あり。部屋数5部屋、大人団体収容人数20人、学生団体収容人数40人、宿泊（2食）350円～400円、指宿駅から徒歩15分と有り。場所等も判明し、お伝えした。

令和3年1月19日（木）

大吉さんからの紹介で、御菓子司 鳥越屋（創業1919年）の鈴木まゆみさん（74歳）に電話をし、当時の話をお伺いする。

鈴木さんは、摺ヶ浜公民館の下柳田館長から聞いたとのこと。

そこでわかったことが以下。

- ・鳥越屋を背にして北側二つ目の四つ角の向い角にあった。今は当時の石垣が痕跡として残っている。そこから敷地のおおよそがわかる。
- ・現在は跡形もなく、現在の当主は鈴木さんとおっしゃるご夫婦
- ・生駒屋旅館は亀之園さんとおっしゃる方が姉妹で経営していた。
- ・妹の方が生駒さんと結婚され生駒屋と名乗っていた。
- ・最後は妹の子どもが東京にいて、そちらに引き取られていった。
- ・生駒さんは標準語を話されていたので地元の人ではなかったようだ。
- ・末裔の方は、もうどなたにも指宿には残られていない。
- ・鈴木さんは「なのはな不動産から土地を買っているからなのはな不動産に電話をしたら詳細がわかるかもしれない。」
- ・建物は昭和41年頃までは建っていた。経営はいつまでやっていたかは不明。
- ・その当時、男性がいた記憶はなく姉妹二人でやっていた。
- ・妹さんはてきぱきしていて元気で若くて、お姉さんと言うより親子に見えた。
- ・旅館というよりは温泉宿だった。当時の石積みの壁が当時の旅館の輪郭を遺す。

令和3年2月16日（火）

宮島さんと鈴木さんと「対談の場づくり」

宮島さん来館。

図書館～殿様湯（今林和子さんと宮島さん対談）～生駒屋旅館跡（鈴木さんと宮島さん対談）～指宿海軍航空基地跡見学（梅崎春生の「崖」のイメージを掴みたい、とのこと）

下吹越も同行し、鈴木まゆみさんに現地案内をしていただく。

現場の石塀などを確認し旅館の広さを実感し、写真に収めた。

<人物にあたる その4>

令和3年1月20日（水）

殿様湯 今林 和子さん

殿様湯の今林さんにお電話するとお嫁さんが出られ、当時を知る和子さん（94歳）に確認してくださり、後日、宮島さん、下吹越で尋ねることに。

令和2年2月16日（火）

宮島さん来館。殿様湯へ移動。

殿様湯の今林和子さんに当時のはなしを聞くための「対談の場づくり」。

「島尾家は電話がなく出版社との電話を引き継いでいた」「穏やかな人だった」「子ども連れよく、お風呂に来ていた」など現在の場所を案内してくれた。

＜人物にあたる その5＞

鹿児島市・宇宿での島尾の足跡

令和2年11月23日

「当時のことを知る人を見つけた」、との知らせを宮島氏に伝える。

令和2年12月8日（水）宮島さんと大徳さんを「つなぐ場づくり」

島尾敏雄が亡くなるまで住んでいた、鹿児島市内の宇宿時代の事を知る人物とつなぐ。歌人の大徳さちさん（96歳）とその娘さんの藤崎徳子さん（63歳）。大徳さんのお宅に行き、当時のおはなしや島尾敏雄も写っているアルバムなどを見せていただく。当時の場所を確認して歩くと、当時の近所の方々が集まってくださり「あの辺だよ」、と言うものの確証がなかったが、一人の電気屋のご婦人が1989年（平成元年）の鹿児島市住宅地図を持ってきてくださり、そこに島尾敏雄の記載があり、確実な資料となった。

他にも

- ・歌人だった藤崎さんの母親が、南日本文化賞に島尾と共に参加しており、藤崎さんは島尾にお祝いの花束を差し上げる役どころだったこと。当時の写真もある。
- ・共通の文化人（羽島さちさん等）に知り合いがいて、そこからもつながっていた
- ・島尾敏雄が亡くなってからの7年間、宇宿に住んでいたが、その時の目の表情が怖いと感じた。
- ・壁が道沿いにぐるりと張りめぐらされていて、広い立派なお宅だった。池もあった。

令和3年2月20日

宇宿の大徳さちさん藤崎徳子さん親子に会いに行く。

当時のアルバムなどを見せていただき、当時の家族の様子などを伺う。

図書館の取組

県立図書館、かごしま近代文学館、遺族（伸三さん）、地域の方々との連携により、約1年かけての長いレファレンスになった。

最後は、その調べた結果が「書籍化」という形になった。調べたことをきっかけとし、指宿市、鹿児島市の「文学碑建立」や「指宿文学散歩」等のまちおこし案として提言活用し、指宿のにぎわい作りに発展するように地域の方々と共に働きかけていきたい。

その他の関連する動き

令和3年2月4日（木）

鹿児島県立図書館に調査に行くとのことで、図書館からも奉仕課調査係にメールを入れ、これまでの経緯などと調べたことなどをお伝えしておいた。

令和3年2月12日（金）

宮島さんが県立図書館へ行かれ、生駒屋旅館を電話帳からあたり複写。時代によって「生駒屋旅館」が、「生駒旅館」、「生駒荘」と書かれていた。

令和3年3月8日（月）

宮島さんが、かごしま近代文学館の学芸員から日記の抜粋で、指宿での住居の間取り図を転送。昭和50年4月から52年9月の日記の一部が転送。

令和3年2月22日（月）

昭和52年版「ゼンリンの住宅地図指宿市」<125>に「島尾敏雄」家の記載あり。

令和3年4月1日（木）

「島尾敏雄と指宿そして宇宿」が脱稿、と確認依頼の連絡が入る。

令和3年7月5日（月）

冊子が完成したとの連絡が入る。第1刷は350冊。

県内の図書館や国立国会図書館、指宿市の各所、かごしま近代文学館、島尾ゆかりの大学、南相馬市の記念館、全国の島尾研究家に届けたとのこと。

令和3年7月13日（火）

「島尾敏雄と指宿そして宇宿」図書館と職員に寄贈して下さる。図書館の蔵書として受け入れる。

令和3年7月18日（日）

「島尾敏雄と指宿そして宇宿」を指宿メインで原稿用紙10枚内にまとめ、文芸いぶすき用に書いていただくことを提案

令和3年7月28日（水）

読売新聞に「島尾敏雄と指宿そして宇宿」が掲載

令和3年8月13日（金）

南日本新聞に「島尾敏雄と指宿そして宇宿」が掲載

令和3年8月14日（土）

文芸いぶすきに投稿

令和3年8月24日（火）

広報いぶすき10月号に、「島尾敏雄と指宿そして宇宿」が掲載予定

令和3年9月 再版予定

7. 応募事例がもたらした主な成果・効果（a）、b)ともに）

※枠の大きさは適宜調整してください。

これまで「時」の中に埋もれていた島尾敏雄と指宿のかかわりが、今回のレファレンスで明るみになり、まちのあちこちで島尾家族が歩きだしたのが見えるようになった。このことを書籍化し、まちの記録として遺せたことは、指宿市の遺産として大きな一歩になったと思う。

宮島さんの疑問を図書館が地域力を生かしながら、サポートでき、地域の方々の記憶の中の島尾敏雄、ミホ、マヤ、伸三を蘇らせることができた。

この書籍は指宿図書館、山川図書館、鹿児島県内の図書館、国立国会図書館等に納本された。

宮島さんは、今回のインタビュー関係者や宇宿地区の管轄の鹿児島市や区長さん、指宿市長にも会いに行き、まちづくりの活用の声掛けをしてきている。ぜひ、実現

させ、一つのレファレンスがまちづくりにまで発展することを願っている。今後の動きに期待したい。

8. 今後の課題や展望（応募したレファレンスサービス事例を踏まえ、今後のレファレンスサービスに対する課題や展望を記入してください。） ※枠の大きさは適宜調整してください。

今回のレファレンスは、かごしま近代文学館の学芸員や、島尾伸三さんの協力を得て、これまで非公開だった資料に光を当てることができた。そのことで、島尾最長い中の指宿での2年半を、リアリティをもって起こすことができた。また、当時の事を知るまちの方のレファレンスインタビューをできたことも大きかった。当時を知る方々が生きているうちに聞けたことはラッキーだった。このことから限られた時を大切にし、聞けることは積極的にレファレンスインタビューしておきたいと思った。失う前に。

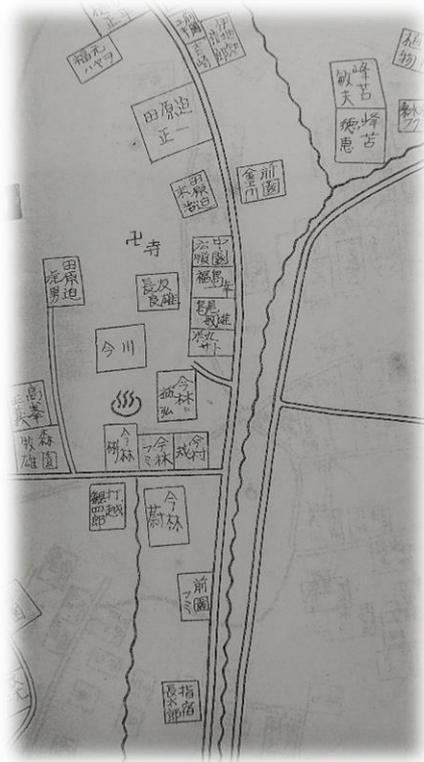
今後も専門機関との連携や、遺族、当時の事を知る方々とのつながりを大切に、「レファレンサーの知りたい」を共に考え、サポートしていきたいと思う。その結果が書籍発行や行政への具体的な働きかけにもつながり情報支援できるようにしていきたい。

今後は現地への看板設置に向けて、共にその手助けをし、図書館とのコラボレーションや、コロナ禍で現地まで行けない方々や障害や高齢などで動くことが不便な方のために、ネットでのいぶすき文学散歩などの動画などを作成し、発信し、指宿の新しい観光やまちづくりにも活かしていけたらと考えている。

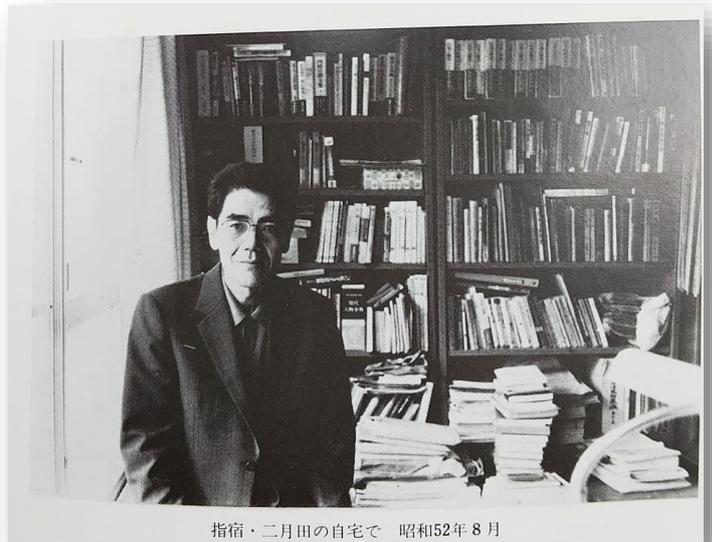
(注)

- 1 本様式とは別に参考資料を添付することも認められますが、資料のサイズはA4サイズに統一してください。なお、本様式とあわせて全体で10ページ（10枚）以内に収めてください。
- 2 書類審査を通過した応募書類については、図書館総合展ホームページ等で公表させていただく場合がありますので、本様式の作成にあたっては個人情報の記載等について御留意ください。

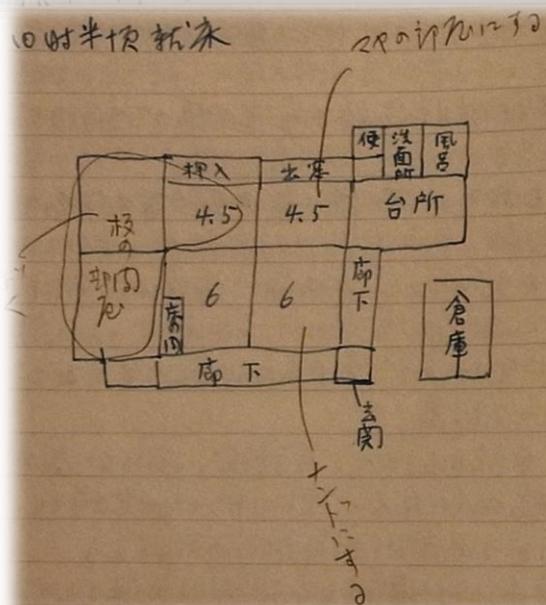
参考資料・関連写真①



旅館名	室数	学 生			泊料(2食)	所 在 部 落	地 図 符 号	索 引 番 号	駅 車 徒 歩 所 要 時 間
		大 人 収 容 力	学 生 収 容 力	学 生 収 容 力					
千生	8	30	60	350~500	摺ヶ濱	口八	121	15分	
駒	5	20	40	350~500	〃	口八	120	15分	
壽川	10	30	60	350~500	〃	口八	118	15分	
大和	6	18	36	350~500	〃	口八	123	15分	
大京	6	30	60	350~500	〃	口八	122	15分	
みゆき	6	20	40	350~500	〃	口八	124	15分	
旅計	3	6	12	300~500	湊南	口六	108	3分	



指宿・二月田の自宅で 昭和52年 8月





『島尾敏雄と指宿そして宇宿』（ご案内）

私こと、この度『島尾敏雄と指宿そして宇宿』を執筆いたしました。島尾敏雄は、第十八震洋特攻隊長（加計呂麻島）の体験をもとにした戦時文学や私小説『死の棘』等で知られる著名な小説家です。折しも2021年の今年は、没後35年に当たります。

島尾敏雄は県本土では最長となりますが、指宿二月田に2年半住んでおりました（妻ミホ・長女マヤと。昭和50年4月～52年9月）。この間に、『戦艦大和ノ最期』等で知られる吉田満と対談を行っています。また昭和26年の夏にも病気療養のため指宿を訪れています（ミホ・長男伸三と）。しかしながら、その足跡は残っていませんし、市民にも意外と知られていません。鹿児島市宇宿もわかりです。宇宿は敏雄が最晩年を過ごした（ミホ・マヤと。昭和60年12月～61年11月）、かつ終焉の地であるにもかかわらず、一部の島尾ファンを除き鹿児島市民・県民にほとんど知られていません。

そのようなことから、私は島尾敏雄の指宿および宇宿の足跡を訪ね（尋ね）ることとしました。この作品は、その一連の調査活動の様様や得られた成果をまとめたものです。指宿図書館長の下越越かおるさん、かごしま近代文学館学芸員の吉村弥依子さん、そしてご長男の島尾伸三さん（写真家・作家）には多大なご支援ご協力をいただきました。

当時を知る人や島尾一家と親交のあった人、そして伸三さんの回想談（思い出話）はとても興味深いですし、伸三さんのご配慮により指宿・宇宿時代の敏雄の日記（抜粋）を初公開、掲載できたことは、何よりもありがたいことでした。とりわけ指宿にとっては40数年前の様子がわかる貴重な記録でもあり、生活・風俗史としても価値があると思われま。

「島尾一家の暮らしぶりや周囲の方々が一家をどう見ていたのか、よくまとめられていると思う。貴重な記録になるのではないか」印刷前に一読してもらった文学好きな知友からのコメントです。

ゆくゆくは指宿市へ「文学碑の建立」（鹿児島市にも）や「いぶすき文学散歩」の提言までするつもりです。

以上のような経緯、作品となっておりますので、どうぞご覧ください。

